

Oracle Direct Seminar



ORACLE®

意外と簡単!? Oracle Database 11g

データベース構築編

日本オラクル株式会社

Oracle Direct





Agenda

- Oracle Databaseの構成概要
- ソフトウェアのセットアップ
- データベースの作成
- Enterprise Managerの利用
- まとめ

無償技術サービスOracle Direct Concierge

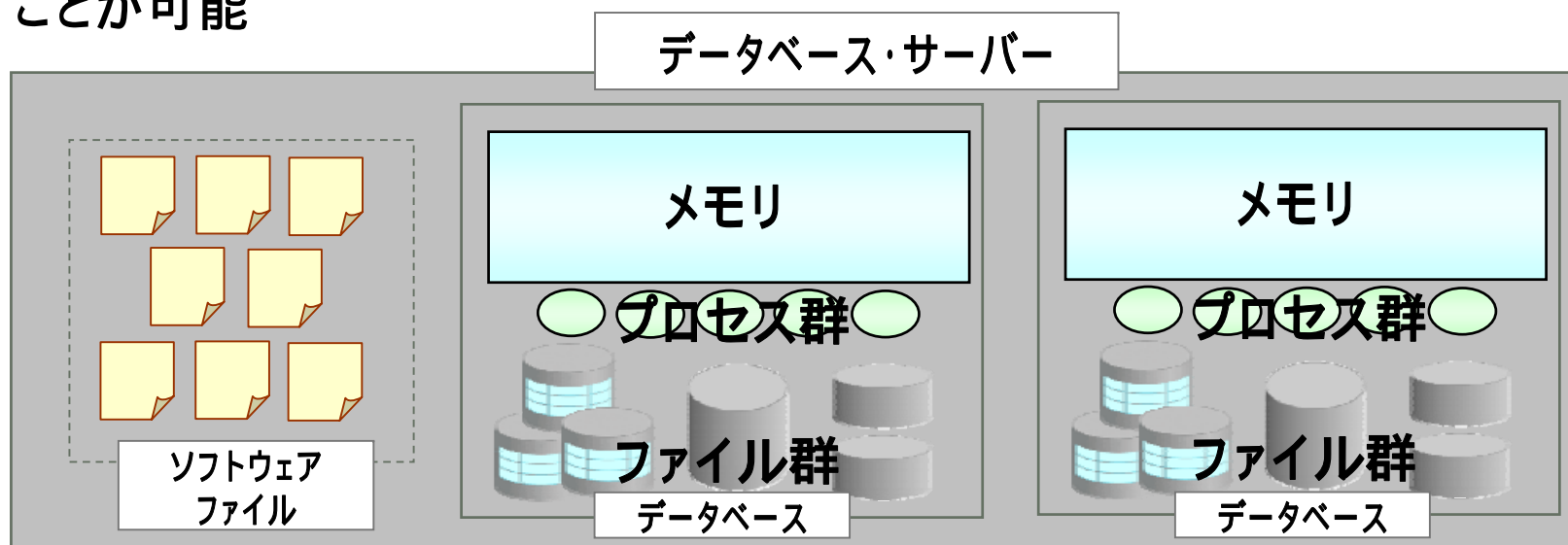
- ・SQL Serverからの移行アセスメント
- ・MySQLからの移行相談
- ・PostgreSQLからの移行相談
- ・Accessからの移行アセスメント
- ・Oracle Database バージョンアップ支援
- ・Oracle Developer/2000 Webアップグレード相談
 - ・パフォーマンス・クリニック
 - ・Oracle Database 構成相談
 - ・Oracle Database 高可用性診断
 - ・システム連携アセスメント
 - ・システムセキュリティ診断
 - ・簡易業務診断
 - ・メインフレーム資産活用

<http://www.oracle.com/lang/jp/direct/services.html>

ORACLE®

Oracle Databaseの構成

- データベースのインストール
 - Oracle Databaseソフトウェアのインストール
- データベースの作成
 - 「インスタンス + データベース」のセットの作成
 - インストール済みのサーバーに、複数のデータベースを作成することが可能





本セミナーにおけるソフトウェア構成

- オペレーティングシステム : Microsoft Windows 2003 + Service Pack1
- RDBMS : Oracle Database 11g Release 1 Enterprise Edition for Windows

構成要件(OSなど)によっては本セミナーと異なる要件や手順でインストールをする場合があります

Agenda

- Oracle Databaseの構成概要
- ソフトウェアのセットアップ
 - システム要件の確認
 - ドキュメントの用意
 - Oracleソフトウェアのインストール
- データベースの作成
- Enterprise Managerの利用
- まとめ

無償技術サービスOracle Direct Concierge

- ・SQL Serverからの移行アセスメント
 - ・MySQLからの移行相談
 - ・PostgreSQLからの移行相談
 - ・Accessからの移行アセスメント
- ・Oracle Database バージョンアップ支援
- ・Oracle Developer/2000 Webアップグレード相談
 - ・パフォーマンス・クリニック
 - ・Oracle Database 構成相談
 - ・Oracle Database 高可用性診断
 - ・システム連携アセスメント
 - ・システムセキュリティ診断
 - ・簡易業務診断
 - ・メインフレーム資産活用

<http://www.oracle.com/lang/jp/direct/services.html>



Oracle Databaseには以下のシステム要件があります

- メモリー要件 : Database Controlを使用するインスタンス用に1 GB
- ディスク要件
 - 1.5GBのスワップ領域
 - /tmpディレクトリ内に400MBのディスク領域
 - Oracleソフトウェア用に1.2GB (オプション)
 - フラッシュリカバリ領域用に2.4GB (オプション)
- オペレーティングシステム
- 最新の情報は以下URLよりご確認ください
<http://www.oracle.com/technology/support/metalink/index.html>
(要 : サポートアカウント)



ドキュメントを用意します

- Oracle Database インストール・ガイド 11g
リリース1(11.1) for Microsoft Windows
- Oracle Database リリース・ノート 11g
リリース 1(11.1) for Microsoft Windows
- Oracle Database プラットフォーム・ガイド 11g
リリース 1(11.1) for Microsoft Windows

上記の資料は以下のURLにあります

[http://www.oracle.com/technology/global/jp/documentation/
products/oracle11g/111/index.html#win](http://www.oracle.com/technology/global/jp/documentation/products/oracle11g/111/index.html#win)

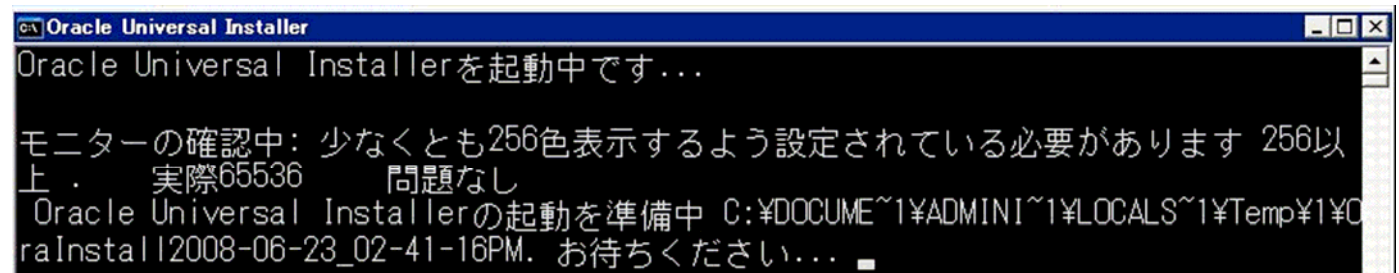
Oracle ソフトウェアのインストール

1. 管理者権限を持つユーザーでWindows OSにログイン
2. Oracle Universal Installerを起動

製品メディアDVDをセットもしくはダウンロードしたソフトウェアを展開し、databaseフォルダ以下のsetup.exeをダブルクリックします

Oracle Universal Installer (OUI)

Oracleソフトウェアやオプションをインストール/削除などを行うためのGUIツール



```
Oracle Universal Installer
Oracle Universal Installerを起動中です...

モニターの確認中: 少なくとも256色表示するよう設定されている必要があります 256以
上 . 実際65536 問題なし
Oracle Universal Installerの起動を準備中 C:\DOCUME~1\ADMINI~1\LOCALS~1\Temp\1\O
raInstall\2008-06-23_02-41-16PM. お待ちください...
```


インストール方法を選択します

インストール方法の選択

ORACLE
DATABASE

● 基本インストール(B)

最小限の入力のみを必要とする標準の構成オプションで、Oracle Database 11gの完全インストールをします。このオプションではファイル・システムを記憶域に使用し、すべてのデータベース・アカウントのパスワードを使用します。

Oracleベースの場所(O): D:\oracle

Oracleホームの場所(L): D:\oracle\product\11.1.0\db_1 参照(R)...

インストール・タイプ(T): Enterprise Edition(2.9GB)

☒ 初期データベースの作成(追加1482MB)(S)

グローバル・データベース名(G): orcl

パスワード(P): パスワードの確認(C):

ヘルプ(H) 戻る(B) 次へ(N) インストール(I) 取消

Oracleベース:
OFA用のOracleディレクトリ構造
のベース

Oracleホーム:
Oracleソフトウェアが格納されて
いるディレクトリ

同時にデータベースを作成可能

クリック

インストールタイプ選択

- Enterprise Edition
- Standard Edition
- Personal Edition
- カスタム

ORACLE

インストール要件のチェック及び構成の確認をします



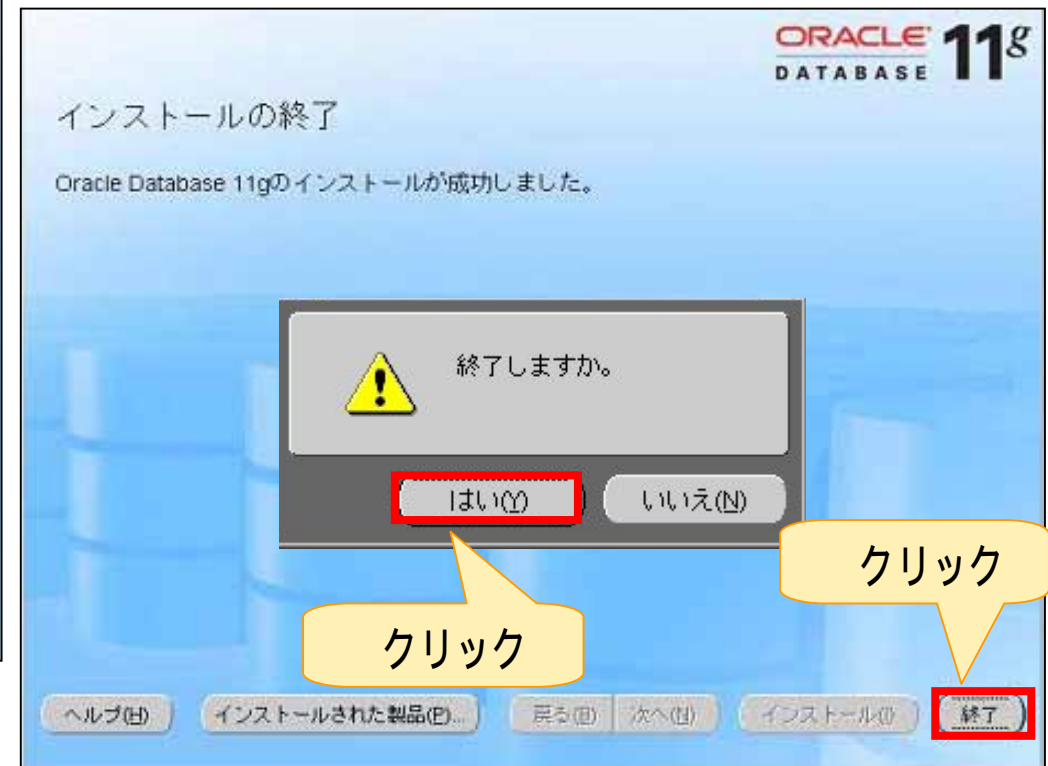
クリック



クリック

ORACLE

インストールを実行します



Agenda

- Oracle Databaseの構成概要
- ソフトウェアのセットアップ
- データベースの作成
 - データベースを作成する方法
 - 事前準備リスナーの構成
 - Oracle Databaseのネットワーク設定
 - DBCAによるデータベースの作成
- Enterprise Managerの利用
- まとめ

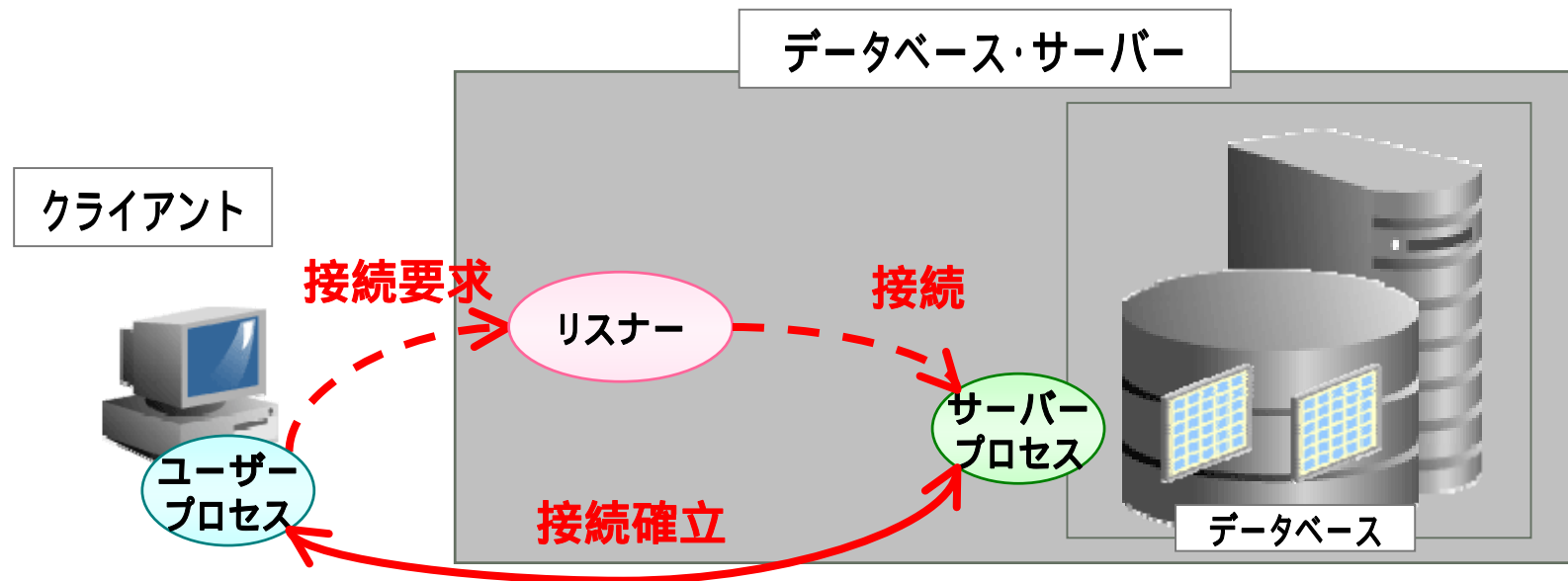
無償技術サービスOracle Direct Concierge

- ・SQL Serverからの移行アセスメント
- ・MySQLからの移行相談
- ・PostgreSQLからの移行相談
- ・Accessからの移行アセスメント
- ・Oracle Database バージョンアップ支援
- ・Oracle Developer/2000 Webアップグレード相談
- ・パフォーマンス・クリニック
- ・Oracle Database 構成相談
- ・Oracle Database 高可用性診断
- ・システム連携アセスメント
- ・システムセキュリティ診断
- ・簡易業務診断
- ・メインフレーム資産活用

<http://www.oracle.com/lang/jp/direct/services.html>

ORACLE®

データベースのアクセスの流れ



クライアントがデータベースに接続するまでの手順

リスナーに接続

リスナーがデータベースに結びつける

ユーザープロセス・サーバープロセスで通信が行われる

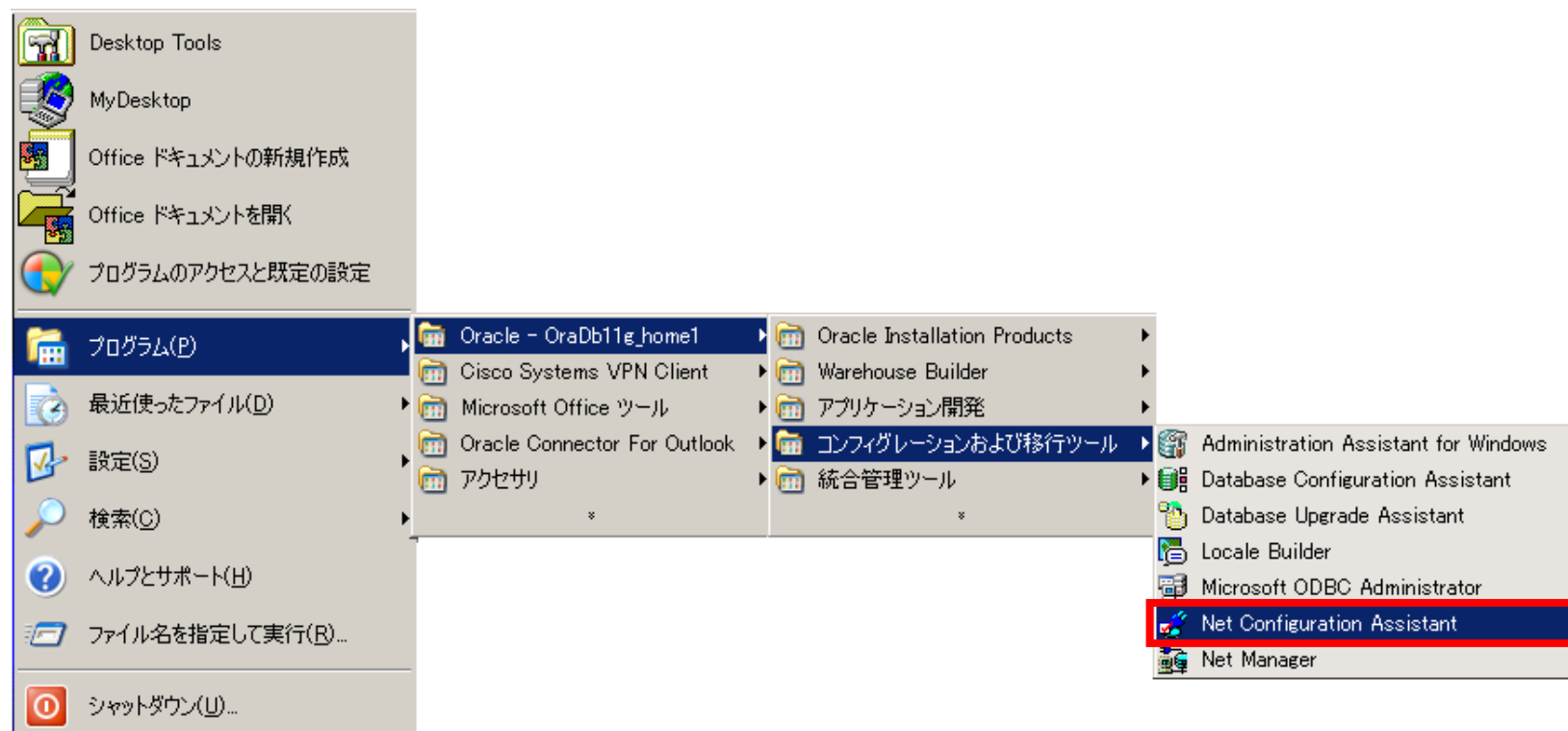
リスナーはDBCAを使用してEnterprise Managerを構成する前に構成しておく必要があります

DBCA: データベースをGUIで作成するツール

Net Configuration Assistantを起動します

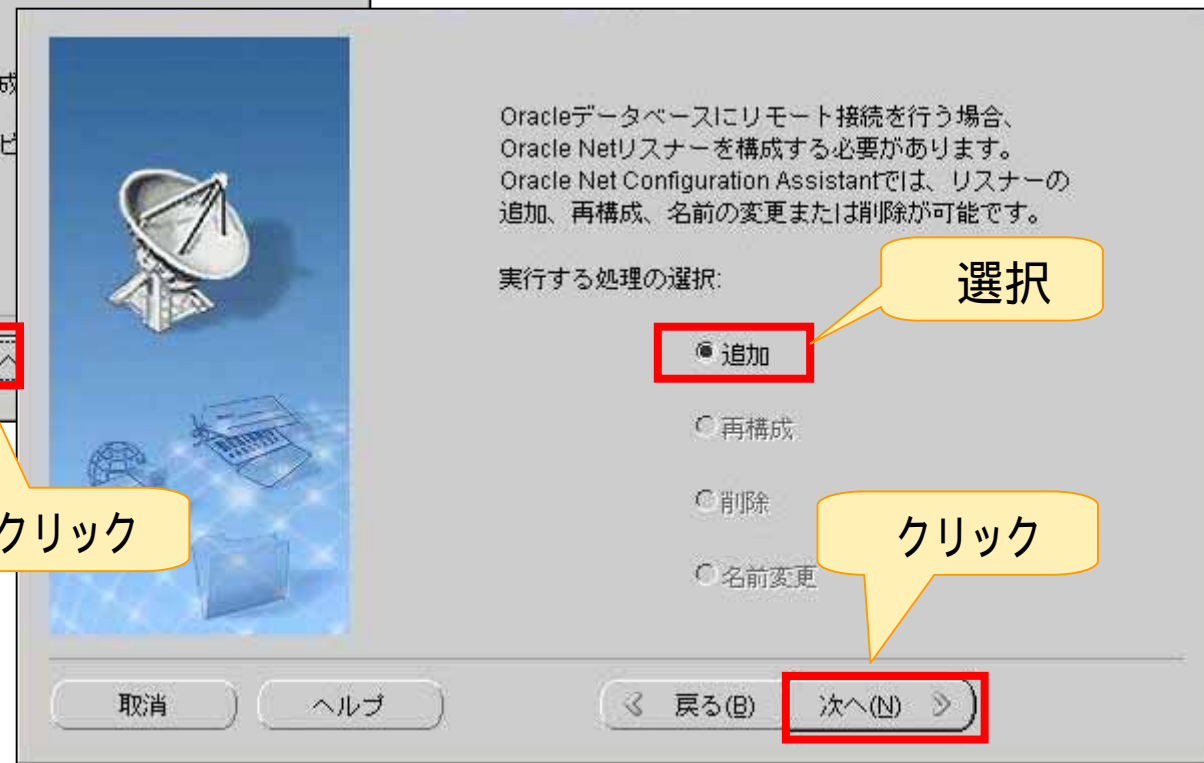
Net Configuration Assistant (Net CA) : GUIによるネットワーク構成ツール

プログラム Oracle コンフィギュレーション及び移行ツール Net Configuration Assistant



ORACLE

リスナー構成を選択し、追加の処理を選びます



リスナー名を入力し、プロトコルを選択します

Oracleデータベースへのリモート接続用には、1つ以上のOracle Netリスナーが必要です。作成するリスナーの名前を入力してください。

リスナー名:

リスナー名を入力
(デフォルトではLISTENER)

クリック

使用するプロトコルを追加

クリック

使用可能なプロトコル

TCP
IPC
NMP

選択済プロトコル

TCP

取消 ヘルプ 戻る(B) 次へ(N)

ORACLE

リスナーが使用するポート番号を決めます

リスナーが使用するTCP/IPポート番号を
い。指定されたポート番号は、このコン
ソフトウェアでは使用できません。

選択

☒ 標準ポート番号の1521を使用

☐ 別のポート番号を使用: 1521

取消 ヘルプ

他のリスナーを構成しますか。

チェック

☒ いいえ

☐ はい

取消 ヘルプ 戻る(B)

リスナーの構成が完了しました。

リスナーが起動状況を確認します

```
C:\Documents and Settings>lsnrctl status
```

```
C:\Documents and Settings>lsnrctl status
```

```
LSNRCTL for 32-bit Windows: Version 11.1.0.7.0 - Product  
3:06
```

```
Copyright (c) 1991, 2008, Oracle. All rights reserved.
```

```
(ADDRESS=(PROTOCOL=tcp)(HOST=)(PORT=1521))に接続中  
リスナーのステータス
```

別名	LISTENER
バージョン	TNSLSNR for 32-bit Windows: Version 11.1.0.7.0 - Product
開始日	10-3月 -2009 17:02:21
稼働時間	0 日 0 時間 10 分 44 秒
トレースレベル	off
セキュリティ	ON: Local OS Authentication
SNMP	OFF
パラメータ・ファイル	D:\ora\product\11.1.0\db_1\network\admin\listener.ora
ログ・ファイル	d:\ora\diag\tnslnr\oracle-jp\listener\alert\log.xml

```
リスニング・エンドポイントのサマリー...
```

```
((DESCRIPTION=(ADDRESS=(PROTOCOL=tcp)(HOST=oracle-jp.oracle.com)(PORT=1521))
```

```
))
```

```
サービスのサマリー...
```

```
サービス"oracle"には、1件のインスタンスがあります。
```

```
インスタンス"oracle"、状態READYには、このサービスに対する1件のハンドラがあり
```

```
ます...
```

```
サービス"oracleXDB"には、1件のインスタンスがあります。
```

```
インスタンス"oracle"、状態READYには、このサービスに対する1件のハンドラがあり
```

```
ます...
```

```
サービス"oracle_XPT"には、1件のインスタンスがあります。
```

```
インスタンス"oracle"、状態READYには、このサービスに対する1件のハンドラがあり
```

```
ます...
```

```
コマンドは正常に終了しました。
```

リスナーステータス確認コマンド

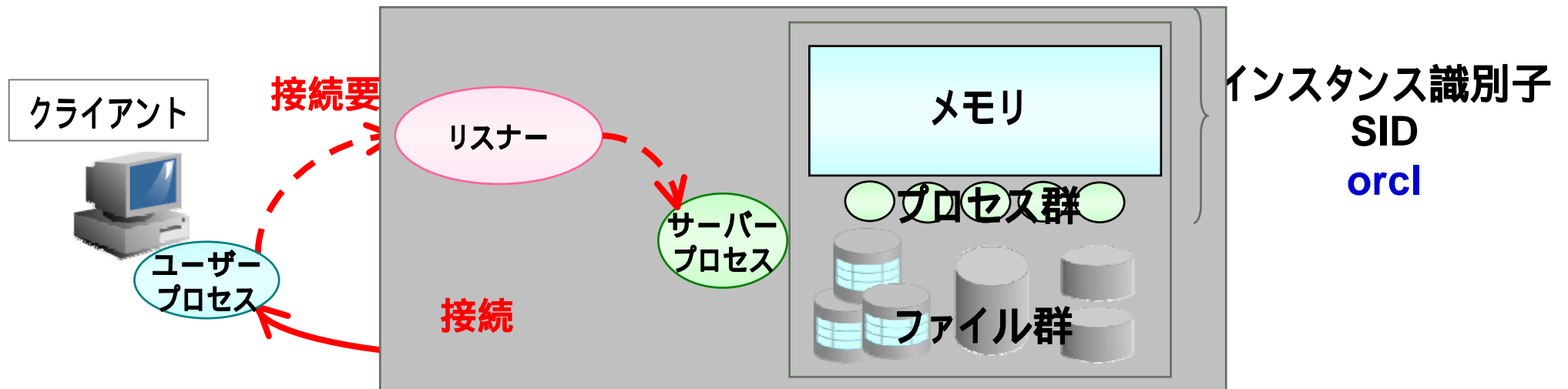
lsnrctl status

リスナー起動コマンド

lsnrctl start

ORACLE

データベースの構成



- **SID**
 - SID(System IDentifer) インスタンス名
 - 同一サーバ内に複数DBを作成する際はマシン内で一意になるようにする
- **グローバル・データベース名**
 - 分散データベース環境でデータベースを識別するために使用
 - ネットワークで一意になるようにする
 - 通常はSID + ドメイン名にすることが多い

データベースには2通りの作成方法があります

- データベースを作成する方法
 - SQL文を使用してコマンドにて作成する方法
 - DBCA (Database Configuration Assistant)というGUIツールを利用して作成する方法

本セミナーでは、DBCAを用いてデータベースを作成します

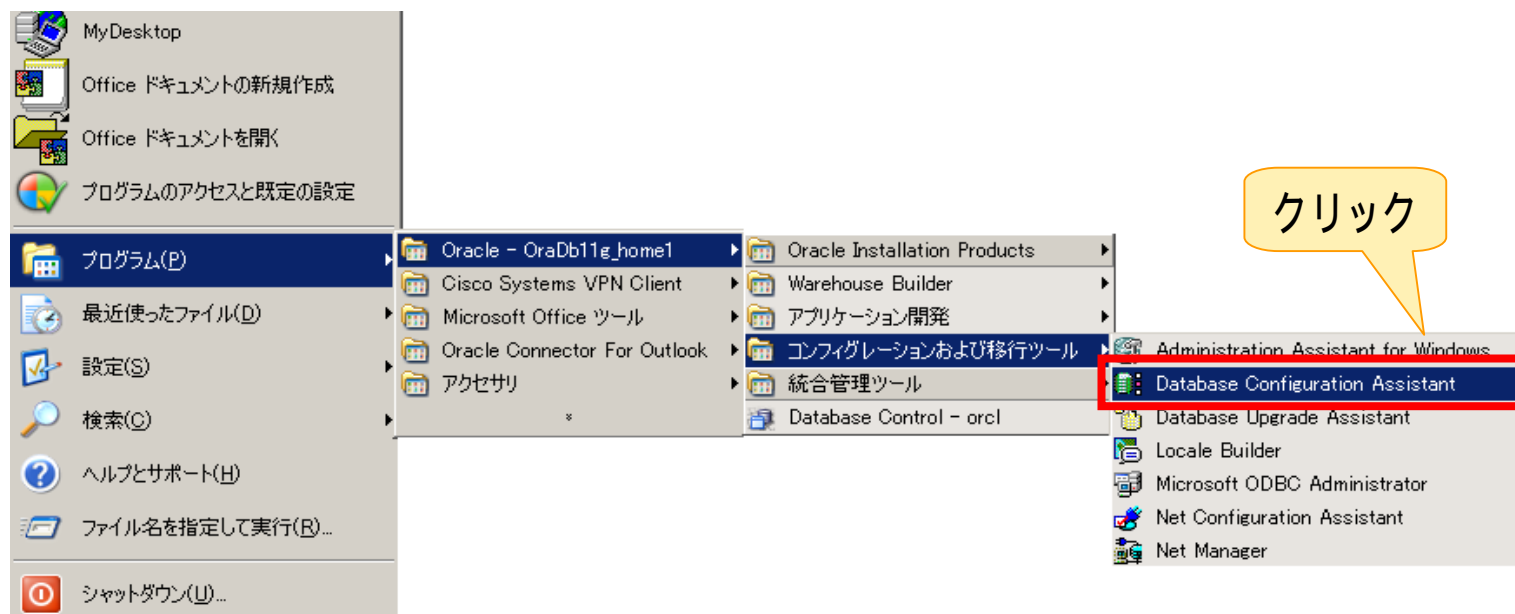
DBCA (Database Configuration Assistant)

データベースの作成や削除、構成の変更、データベースのテンプレートを作成するためのツール

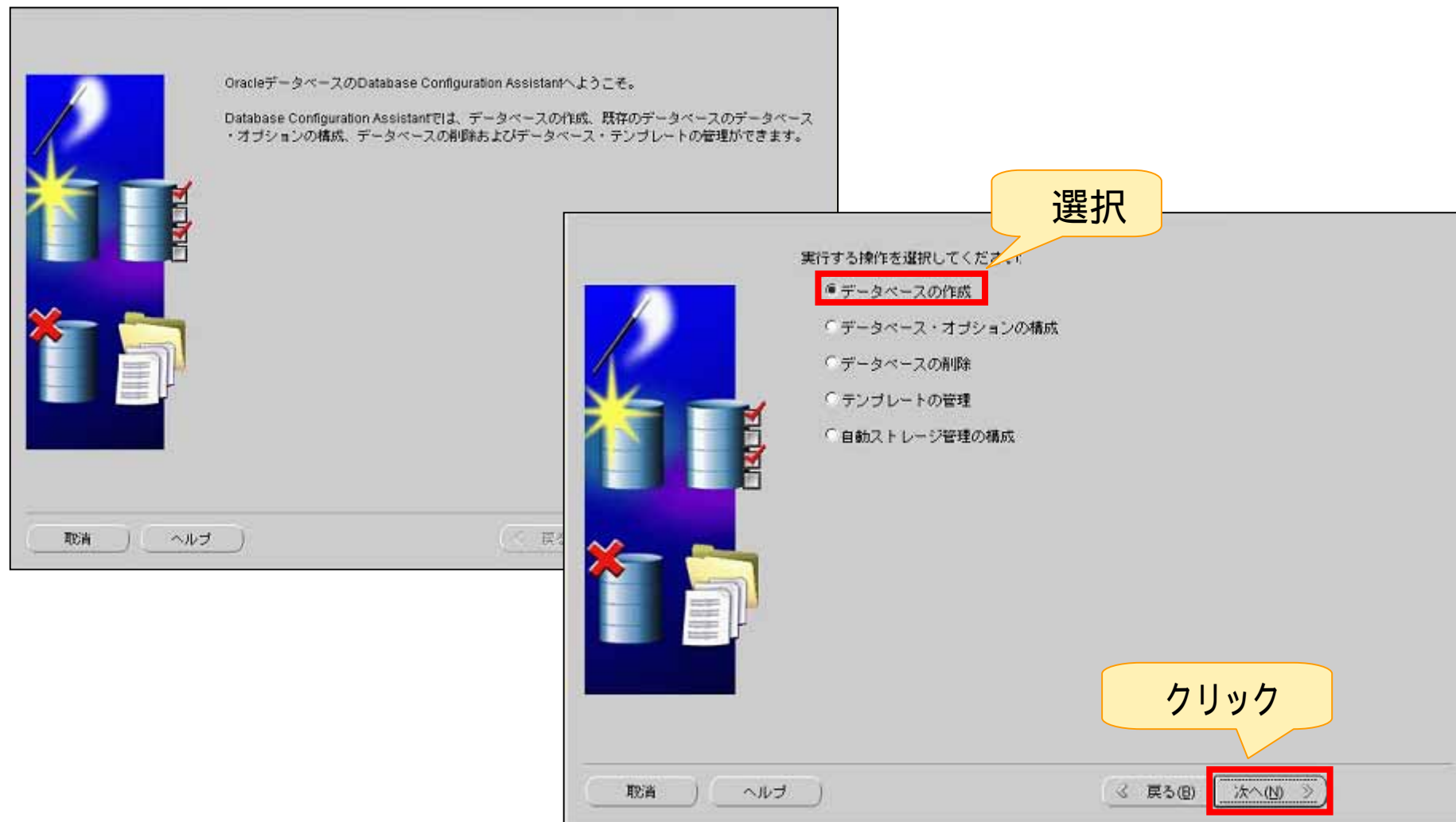
DBCAを起動します

DBCAを起動

スタート プログラム Oracle コンフィギュレーション
Database Configuration Assistant



データベースの作成を選択します



データベースのテンプレートを選択します

データファイルを含むテンプレートには、事前作成されたデータベースが含まれます。これにより、1時間以上をかけるかわりに数分で新規データベースを作成できます。データファイルなしのテンプレートは、データベース作成後には変更できないブロック・サイズなどの属性変更が必要な場合など、必要がある場合にのみ使用します。

選択	テンプレート	データファイルを...
<input checked="" type="radio"/>	汎用またはトランザクション処理	はい
<input type="radio"/>	カスタム・データベース	いいえ
<input type="radio"/>	データ・ウェアハウス	はい

選択

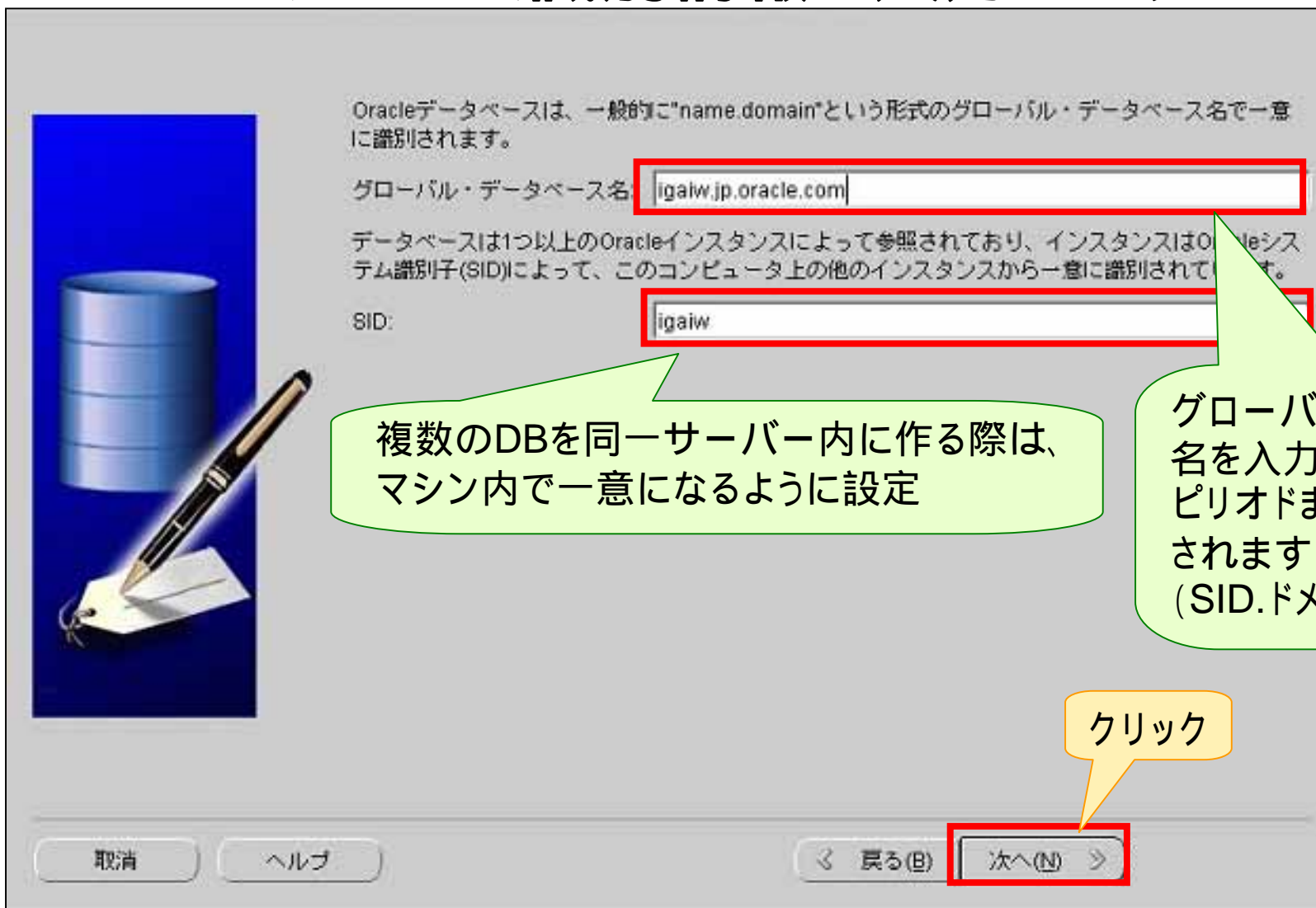
テンプレートの選択基準

- 汎用またはトランザクション処理
 - 多くのユーザーの多数のトランザクションを同時処理できる
- データウェアハウス
 - 複雑な問い合わせが行われ、大量のデータを処理できる
- カスタム
 - 柔軟にデータベースを定義することができる

クリック

取消 ヘルプ < 戻る(B) 次へ(N) >

データベース識別情報を入力します



Oracleデータベースは、一般的に"name.domain"という形式のグローバル・データベース名で一意に識別されます。

グローバル・データベース名

データベースは1つ以上のOracleインスタンスによって参照されており、インスタンスはOracleシステム識別子(SID)によって、このコンピュータ上の他のインスタンスから一意に識別されています。

SID:

複数のDBを同一サーバー内に作る際は、マシン内で一意になるように設定

グローバル・データベース名を入力すると、最初のピリオドまでがSIDに入力されます (SID.ドメイン名が基本)

クリック

取消 ヘルプ < 戻る(B) 次へ(N) >

管理オプションを選択します

The screenshot shows the Oracle NetCA configuration window. A red box highlights the 'Enterprise Managerの構成' (Configure Enterprise Manager) option, which is selected. A yellow callout bubble with the text '選択' (Select) points to this option. Another red box highlights the 'ローカル管理用にDatabase Controlを構成' (Configure Database Control for local management) option, which is also selected. A yellow callout bubble with the text '選択' (Select) points to this option. A blue callout bubble with a warning icon and the text 'リスナーを事前に構成していないと次へ進めません' (Cannot proceed to the next step unless the listener is configured in advance) is overlaid on the right side. A red dashed line outlines the configuration options for Database Control, and a red box highlights this area, with a red arrow pointing to a detailed view of these options.

選択

選択

リスナーを事前に構成していないと次へ進めません

Database Controlを使用してデータベースを構成するには、現在のOracleホームにリスナーが構成されている必要があります。Netcaを実行してリスナーを構成してから、次に進んでください。構成しない場合、Database Controlによる構成なしで続行するよう選択できます。

OK

ローカル管理用にDatabase Controlを構成

アラート通知の有効化

送信メール(SMTP)サーバー:

受信者の電子メール・アドレス:

リカバリ領域への日次ディスク・バックアップの有効化

バックアップ開始時間: 02 00

OSユーザー名:

OSパスワード:

取消 ヘルプ

データベース資格証明を決めます

セキュリティの理由により、新規データベースの次のユーザー・アカウントのパスワードを指定する必要があります。

☐ 別の管理パスワードを使用

ユーザー名	パスワード	パスワードの確認
SYS		
SYSTEM		
DBSNMP		
SYSMAN		

☒ すべてのアカウントに同じ管理パスワードを使用

パスワード:

パスワードの確認:

取消 ヘルプ < 戻る(B) 次へ(N) >

選択

別の管理パスワードを使用
SYS, SYSTEM, DBSNMP,
SYSMAN個別にパスワード
を設定

すべてのアカウントに同じ管
理パスワードを使用
上記の4ユーザー・アカウント
に対して同じパスワードを設
定

11gではパスワード設定の際、
大文字小文字を区別します

クリック

ORACLE

記憶域オプションを選択します

選択

データベースに使用する記憶域メカニズムを選択してください。

☒ ファイルシステム

データベース記憶域にファイルシステムを使用します。

☐ 自動ストレージ管理 (ASM)

自動ストレージ管理により、データベース記憶域の管理が簡素化され、データベース・レイアウトが最適化されてI/Oパフォーマンスが向上します。このオプションを使用するには、ディスク・セットを指定してASMディスク・グループを作成するか、既存のASMディスク・グループを指定します。

☐ RAWデバイス

自動ストレージ管理を使用しておらず、クラスタ・ファイルシステムが使用可能ではない場合は、Real Application Clusters (RAC)データベースに必要な共有記憶域を、RAWパーティションまたはボリュームで指定できます。データベースに作成予定のデータファイル、制御ファイルお

記憶域メカニズム選択

ファイルシステム

データベースファイルが格納されるディレクトリパスを指定できます

自動ストレージ管理(ASM)

Oracle Databaseがデータベースファイルの配置とネーミングを自動的に管理します

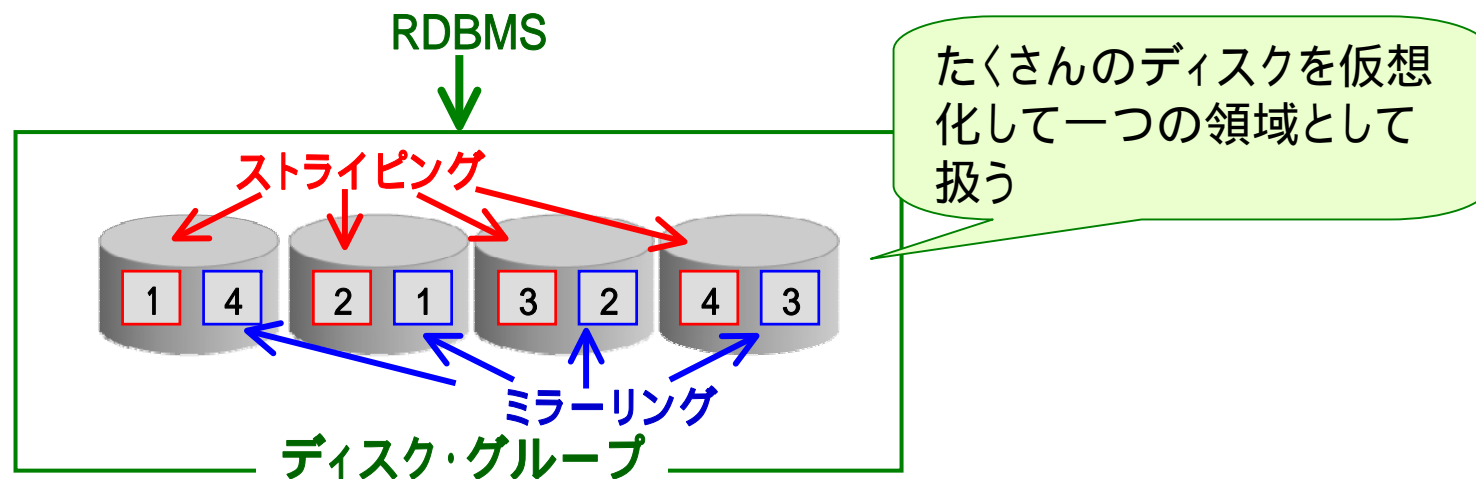
RAWデバイス

Oracle DatabaseにRAWデバイスと呼ばれるフォーマットされていない物理ディスク領域を割り当てることで、OSのファイルシステムの外部にあるストレージデバイスを管理できます

ORACLE

Automatic Storage Management (ASM)

- 10gから導入された領域の自動管理機能
- ディスクの構成を仮想化
 - ディスクの物理的な配置やサイズを意識する必要がない
 - オンラインで、ディスクの追加や削除が可能
- ストライピング/ミラーリングが可能
 - ストライピング アクセスが分散され、特定のディスクにアクセスが集中しない
 - ミラーリング ひとつのディスクが障害にあっても処理の継続が可能(障害対策)
(設定により「なし」or「2重」or「3重」のミラーリングが可能)



データベースファイルの位置を指定します

選択

作成するデータベース・ファイルの位置を指定:

☒ テンプレートのデータベース・ファイル位置を使用

☐ すべてのデータベース・ファイルに対して共通の位置を使用

データベース・ファイルの位置: [ORACLE_BASE]\oradata 参照...

☐ Oracle Managed Filesの使用

データベース領域: [ORACLE_BASE]\oradata 参照...

データベースファイル位置の指定

テンプレートのデータベースファイル位置を使用

DBCAはテンプレートに設定されているディレクトリ情報を使用します

すべてのデータベースファイルに対して共通の位置を使用

すべてのデータベースファイルは指定した場所に作成されます

Oracle Managed Filesの使用

データベースファイルの管理をデータベースに完全に委任します

クリック

取消 ヘルプ (P) 次へ(N) > 完了(E)

データベース・ファイルの位置

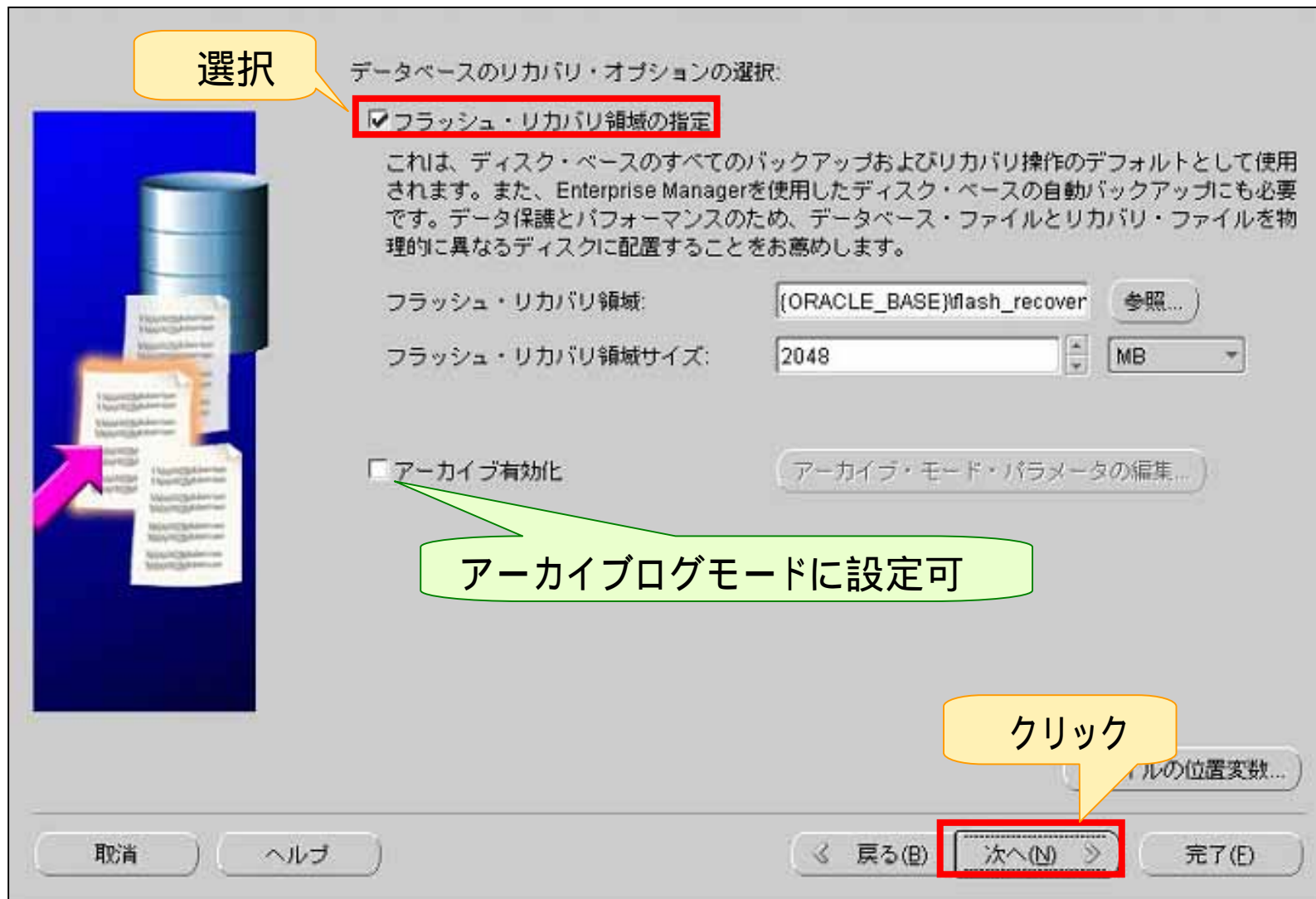
- **Oracle Managed Files**

- 9iから導入された領域の管理機能
- パラメータで指定したフォルダにデータベース・ファイルを集中させ、ファイル名やサイズをOracleが自動管理する機能
 - 表領域の作成時に表領域名のみ指定すればよい
 - DROPした表領域に属するデータ・ファイルが自動削除される
- ディスク一本で収まる小規模システム、管理を楽にしたいパッケージソフトのバックエンドDB向け
- 領域の分散ができないため、ASMと併用し、ストレージ側で負荷分散を行うと効果的

```
DB_CREATE_FILE_DEST='D:¥oracle¥oradata¥data '  
DB_CREATE_ONLINE_LOG_DEST_1= 'D:¥oracle¥oradata¥other '
```



リカバリ構成を設定します



選択

データベースのリカバリ・オプションの選択:

☒ フラッシュ・リカバリ領域の指定

これは、ディスク・ベースのすべてのバックアップおよびリカバリ操作のデフォルトとして使用されます。また、Enterprise Managerを使用したディスク・ベースの自動バックアップにも必要です。データ保護とパフォーマンスのため、データベース・ファイルとリカバリ・ファイルを物理的に異なるディスクに配置することをお勧めします。

フラッシュ・リカバリ領域: 参照...

フラッシュ・リカバリ領域サイズ: MB

☐ アーカイブ有効化

アーカイブ・モード・パラメータの編集...

アーカイブログモードに設定可

クリック

キャンセル ヘルプ < 戻る(B) **次へ(N) >** 完了(E)



リカバリ・オプションの設定

- **フラッシュ・リカバリ領域**

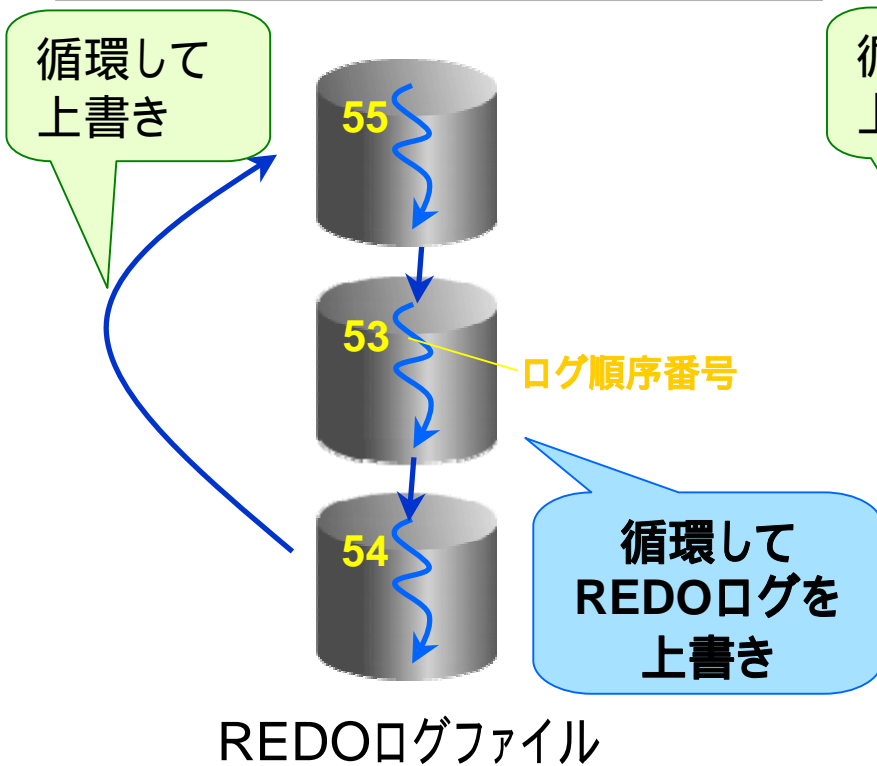
- 10gから導入されたバックアップ・リカバリ用の領域
- フラッシュ・リカバリ領域に取得したバックアップは自動管理されるためフラッシュ・リカバリ領域を使用することが推奨
 - 領域の使用率をEnterprise Managerから確認できる
 - バックアップの保存期間を指定することにより、保存期間を過ぎた古いバックアップを上書き可能
- Enterprise Editionではフラッシュ・リカバリの機能のために使用
 - フラッシュバック・データベース

- **アーカイブの有効化**

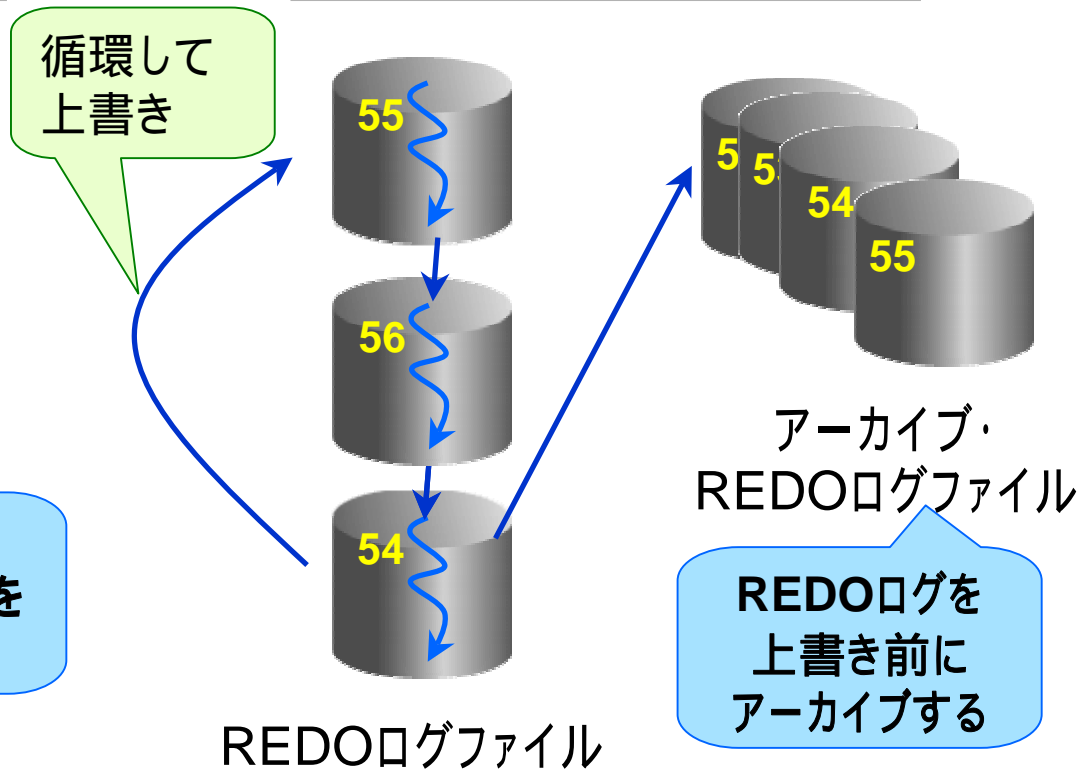
- アーカイブ・ログを出力
 - REDOログ(変更履歴ログ)のコピー
- 障害直前までの復旧が可能
- 部分バックアップ、オンラインバックアップが可能

データベース運用モード

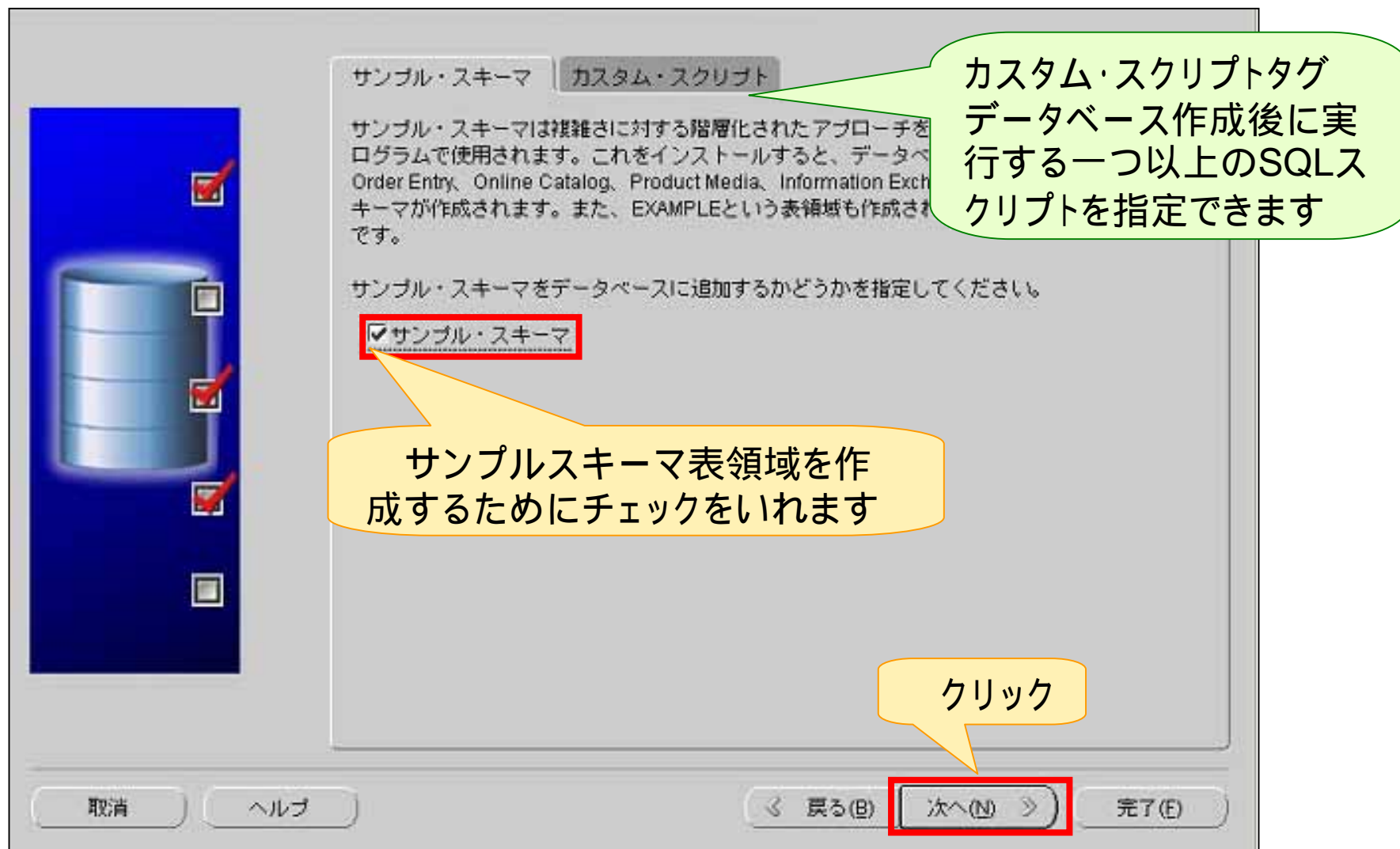
ノー・アーカイブ・ログ モード



アーカイブ・ログ モード



データベースコンテンツを作成します



メモリーの管理方法を設定します

選択

標準

メモリー・サイズ(SGAおよびPGA): 1024 MB

割合: 50 % 250 MB 2037 MB

☒ 自動メモリー管理の使用

メモリー分散を表示...

カスタム

メモリー管理: 自動共有メモリー管理

SGAサイズ: 610 MB

PGAサイズ: 203 MB

Oracleで使用するメモリーの合計: 814 MB

すべての初期化パラメータ...

クリック

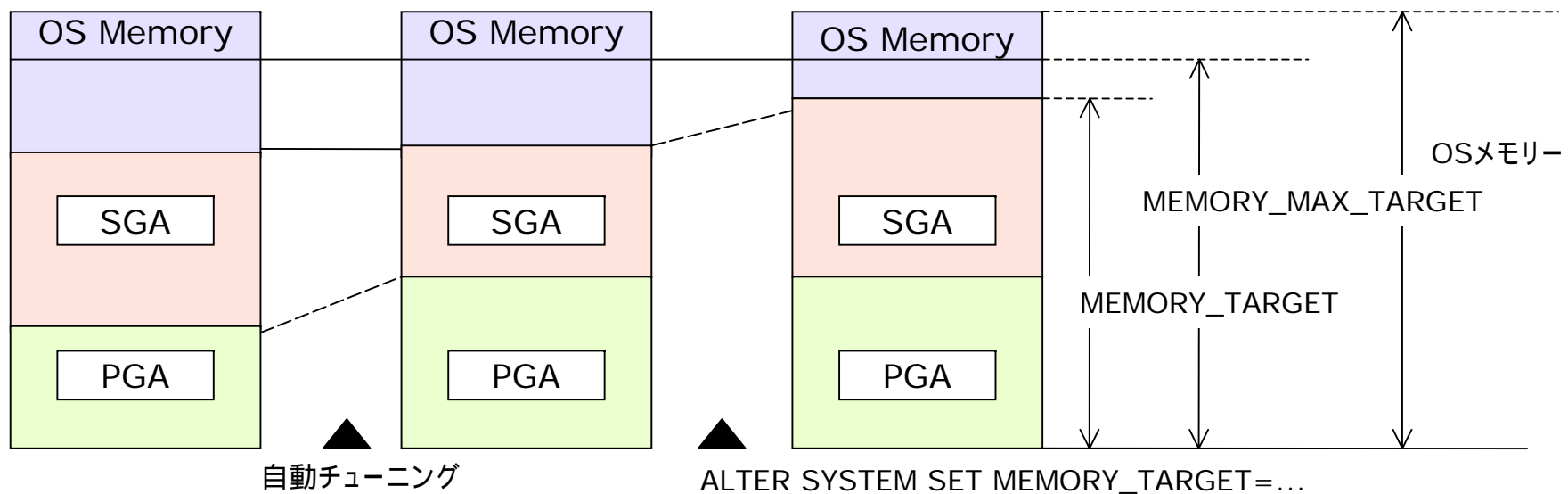
次へ(N)

自動メモリー管理

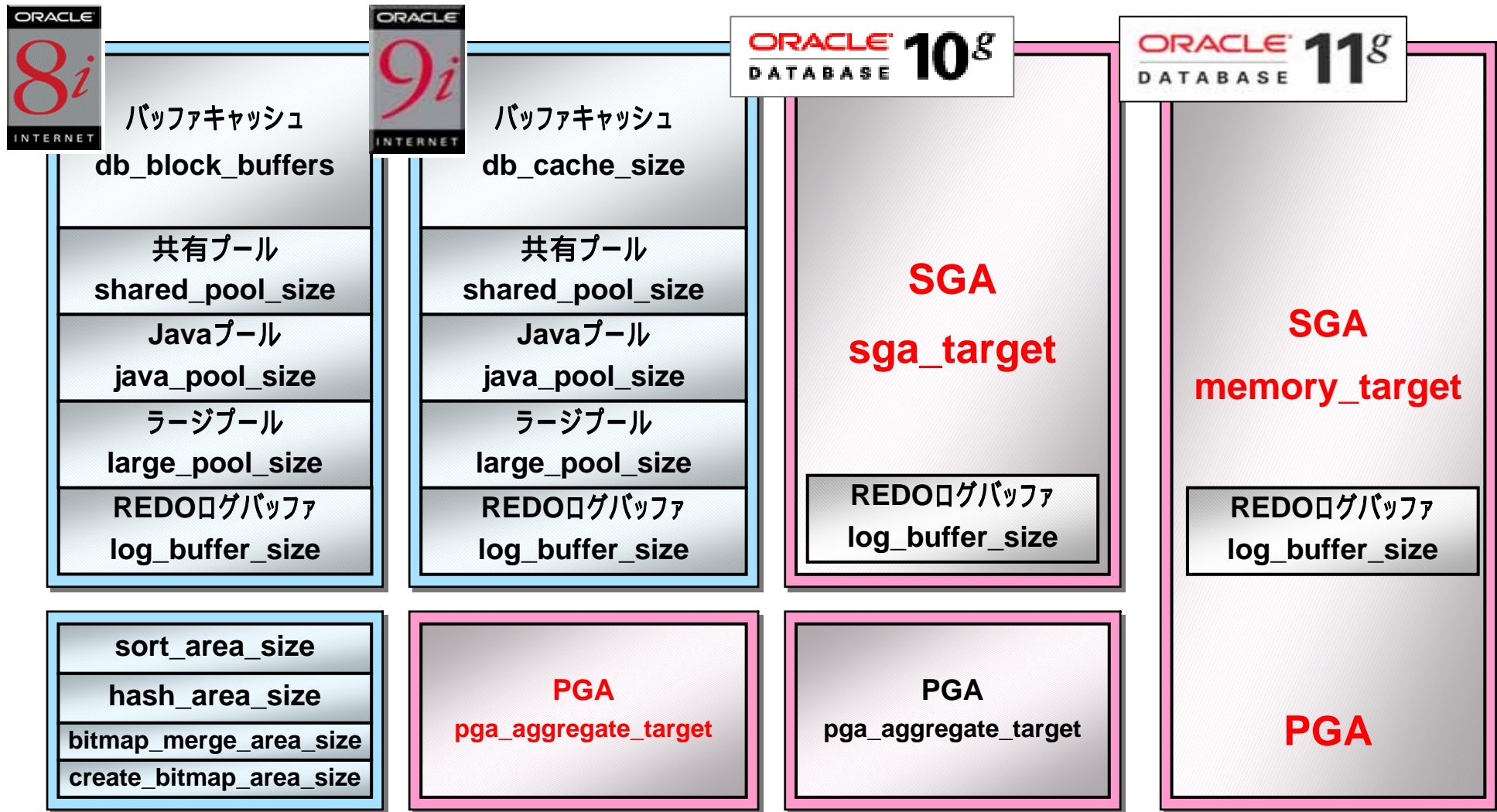


自動メモリー管理

インスタンスに割り当てられたメモリー内で、SGAとPGAの間に必要に応じて動的に再割り当てを行います



自動メモリー管理の進化



メモリーの管理方法を設定します

メモリー

サイズ指定 キャラクタ・セット 接続モード

☐ 標準

メモリー・サイズ(SGAおよびPGA): 814 MB

SGAとPGAをそれぞれ指定することもできます

☒ カスタム

メモリー管理: 自動共有メモリー管理

SGAサイズ: ☒ カスタム

メモリー管理: 自動共有メモリー管理

SGAサイズ: 610 MB

PGAサイズ: 203 MB

Oracleで使用するメモリーの合計: 813 MB

すべての初期化パラメータ...

取消 ヘルプ < 戻る(B) 次へ(N) > 完了(E)

メモリの管理方法を設定します

メモリー

サイズ指定 キャラクタ・セット 接続モード

☐ 標準

メモリー・サイズ (SGAおよびPGA): 814 MB

割合: 40 % 250 MB 2037 MB

手動でメモリーサイズを設定することも可能です

☒ カスタム

メモリー管理 手動共有メモリー管理

共有プール

バッファ

Javaプール

ラージ・プール

PGAサイズ

Oracleで使用するメモリーの合計: 813 MB

すべての初期値をリセット

取消 ヘルプ

ブロックサイズとユーザープロセス最大数を指定します

選択

メモリー **サイズ指定** キャラクタ・セット 接続モード

ブロックは、割当てとI/Oで使用する記憶域の最小単位です。一度データベースが作成されると、変更できません。

ブロック・サイズ: 8192 バイト

このデータベースに同時に接続可能なオペレーティング・システム・ユーザー・プロセス数を指定してください。このパラメータの値には、ユーザー・プロセスとOracleバックグラウンド・プロセスが含まれます。

プロセス数: 150

事前構成テンプレートを使用したときは、指定できません

クリック

すべての初期化パラメータ...

取消 ヘルプ < 戻る(B) **次へ(N) >** 完了(E)

データベースで使用するキャラクタセットを定義します

選択

メモリー サイズ指定 **キャラクタ・セット** 接続モード

データベース・キャラクタ・セット

☒ デフォルトを使用
このデータベースのデフォルトのキャラクタ・セットは、このオペレーティング・システムの言語設定に基づいています。: JA16SJISTILDE

☐ Unicode(AL32UTF8)を使用
キャラクタ・セットをUnicode(AL32UTF8)に設定すると、複数の言語グループを格納できます。

☐ 次のキャラクタ・セットから選択
データベース・キャラクタ・セット: AL32UTF8 - Unicode UTF-8汎用キャラクタ・...
☒ 推奨のキャラクタ・セットのみ表示

各国語キャラクタ・セット: AL16UTF16 - Unicode UTF-16汎用キャラクタ・セット

デフォルト言語: 日本語

デフォルト地域: 日本

すべての初期化パラメータ...

取消 ヘルプ < 戻る(B) 次へ(N) > 完了(E)

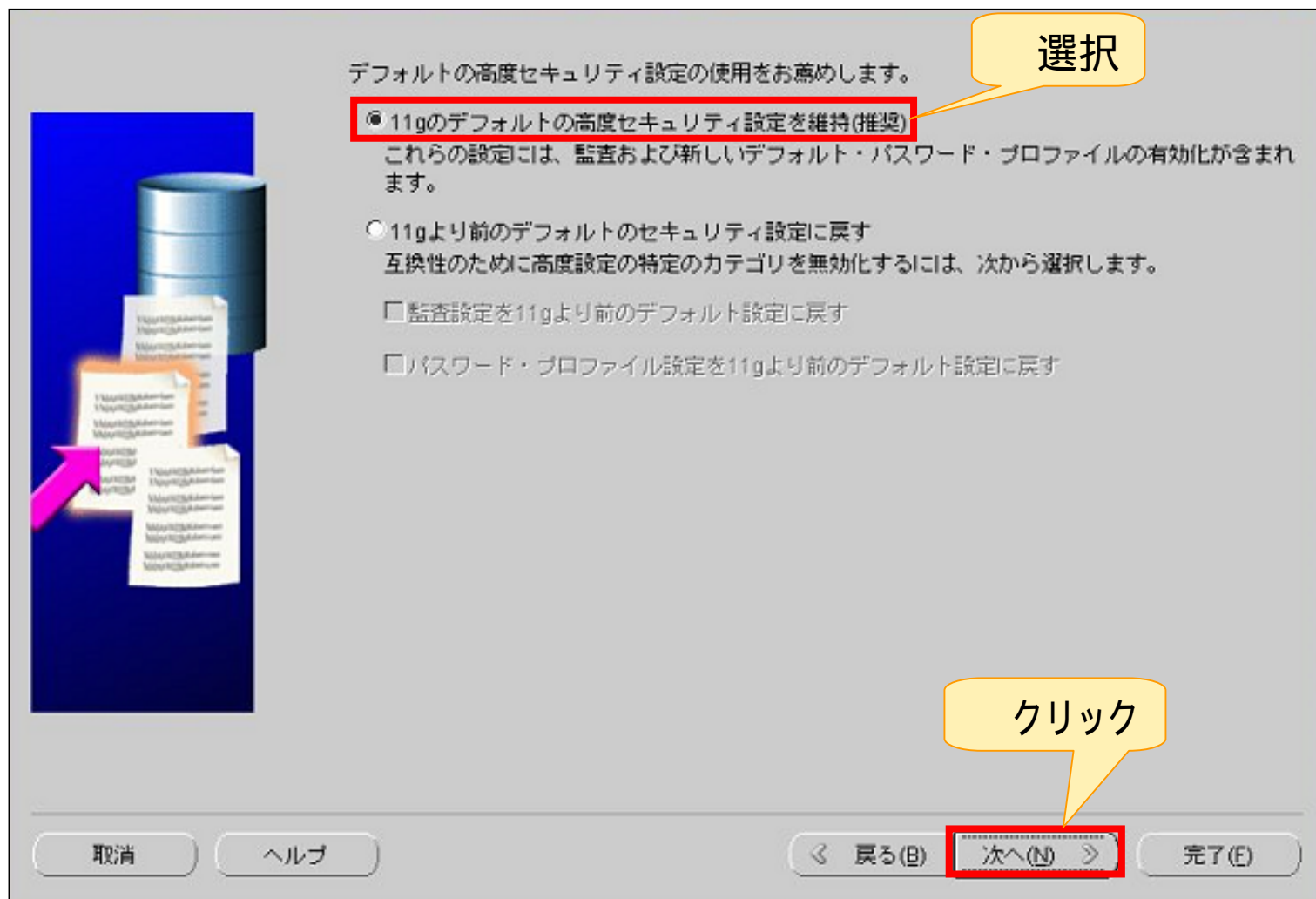
サーバープロセスの設定をします

選択

クリック

ORACLE

セキュリティの設定選びます



デフォルトの高度セキュリティ設定の使用をお薦めします。

☒ 11gのデフォルトの高度セキュリティ設定を維持(推奨)

これらの設定には、監査および新しいデフォルト・パスワード・プロファイルの有効化が含まれます。

☐ 11gより前のデフォルトのセキュリティ設定に戻す

互換性のために高度設定の特定のカテゴリを無効化するには、次から選択します。

☐ 監査設定を11gより前のデフォルト設定に戻す

☐ パスワード・プロファイル設定を11gより前のデフォルト設定に戻す

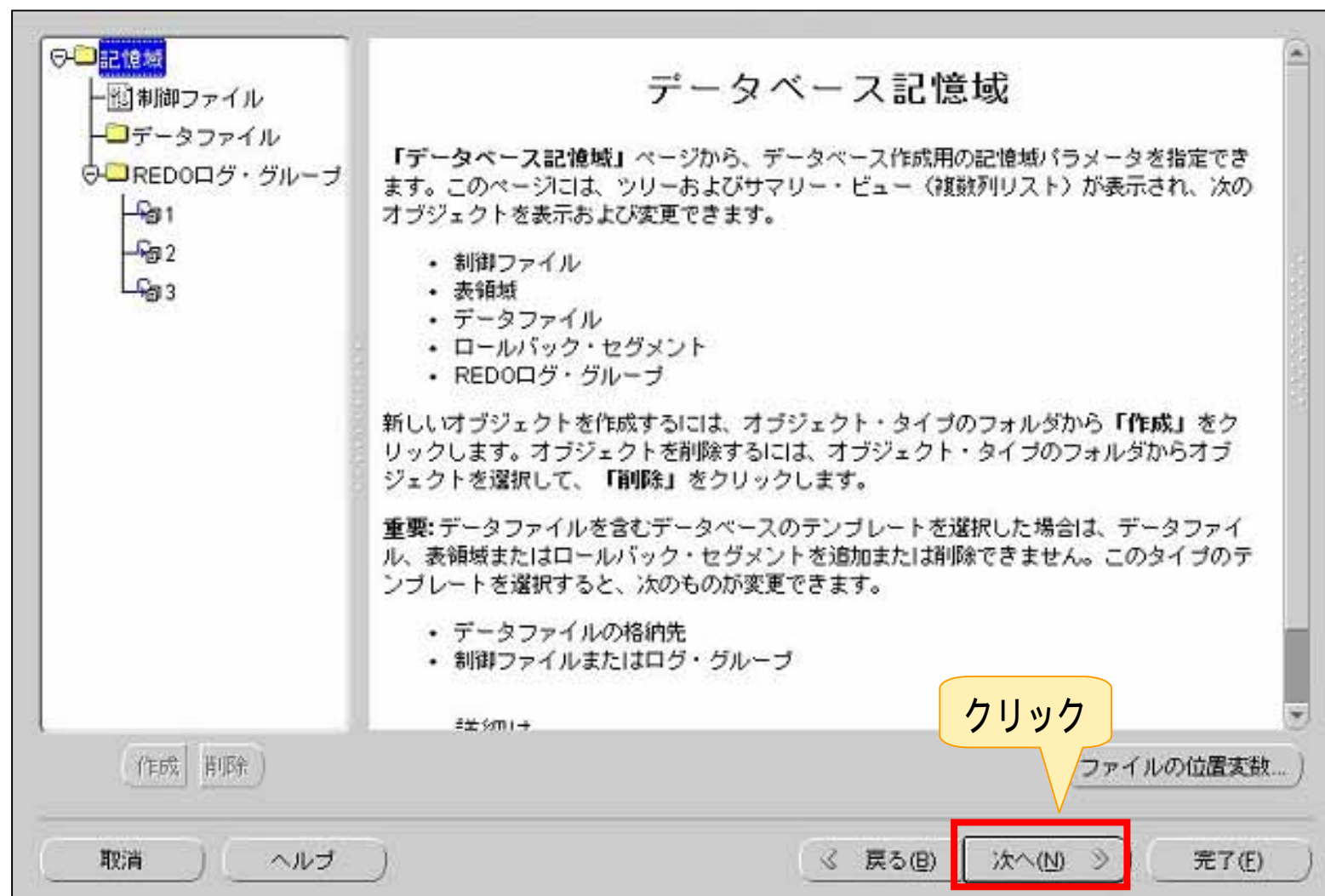
取消 ヘルプ

戻る(B) 次へ(N) 完了(F)

自動メンテナンスタスクを有効化します



データベース記憶域を確認・変更します



データベースの作成します

データベース作成オプションを選択してください:

☒ データベースの作成

☐ データベース・テンプレートとして保存

名前: igaiw

説明:

☐ データベース作成スクリプトの生成

保存先
ディレクトリ: D:\Oracle\admin\igaiw\scripts 参照...

キャンセル ヘルプ < 戻る(B) 次へ(N) > **完了(F)**

選択

クリック

テンプレートとして保存することも可能です

データベースの構成情報を確認し、作成を実行します

次の操作が行われます:
データベース"igaiw"を作成します。

データベースの詳細:

汎用またはトランザクション処理

このデータベース・テンプレートを使用して、汎用またはトランザクション処理
前構成済データベースを作成します。

共通オプション

オプション	選択済
Oracle JVM	true
Oracle Text	true
Oracle XML DB	true
Oracle Multimedia	true
Oracle OLAP	true
Oracle Spatial	true
Oracle Ultra Search	true
Oracle Label Security	false
サンプル・スキーマ	true

クリック

Performance Innovations

- SecureFiles (next generation LOB storage)
- Table compression for all applications
- RAC cache fusion optimizations

データベース・ファイルのコピー中
Oracleインスタンスの作成および起動中
データベース作成の完了

クローン・データベースの作成 進行中

26%

現在運用されているログ・ファイルは次の場所にあります:
D:\Oracle\cfgtoollogs\tdbc\igaiw

停止

HTML形式で保存...

OK 取消 ヘルプ

データベースの作成完了を確認します

データベースの作成が完了しました。詳細は、次の場所にあるログ・ファイルを参照してください:

D:\Oracle\cfgtoollogs\dbcainigaiw。

データベース情報:

グローバル・データベース名: igaiw.jp.oracle.com

システム識別子(SID): igaiw

サーバー・パラメータ・ファイル名: D:\Oracle\product11.1.0\db_1\database\spfileigaiw.ora

Database ControlのURLは<https://jpdcl15dc.jp.oracle.com:5500/em>です

管理リポトリは、Enterprise Managerデータが暗号化されるセキュア・モードで配置されています。暗号化キーはファイルD:\Oracle\product11.1.0\db_1\jpdcl15dc.jp.oracle.com_igaiw\sysman\config\emkey.oraに配置されています。このファイルが失われると暗号化データを使用できなくなるため、このファイルは必ずバックアップしてください。

注意: SYS、SYSTEM、DBSNMPおよびSYSMAN以外のすべてのデータベース・アカウントはロックされています。ロックされたアカウントの完全なリストを表示、またはデータベース・アカウント(DBSNMPとSYSMAN除く)を管理するには、「パスワード管理」ボタンを選択してください。「パスワード管理」ウィンドウで、使用するアカウントのみ、ロックを解除します。アカウントのロック解除後すぐに、デフォルトのパスワードを変更することをお勧めします。

パスワード管理...

クリック

終了

Agenda

- Oracle Databaseの構成概要
- ソフトウェアのセットアップ
- データベースの作成
- Enterprise Managerの利用
 - 事前準備: Windows OSの設定
 - 事前準備: DBCONSOLEの起動
 - Enterprise Manager Database Consoleにログイン
 - データベースの起動と停止
- まとめ

無償技術サービスOracle Direct Concierge

- ・SQL Serverからの移行アセスメント
 - ・MySQLからの移行相談
 - ・PostgreSQLからの移行相談
 - ・Accessからの移行アセスメント
- ・Oracle Database バージョンアップ支援
- ・Oracle Developer/2000 Webアップグレード相談
 - ・パフォーマンス・クリニック
 - ・Oracle Database 構成相談
 - ・Oracle Database 高可用性診断
 - ・システム連携アセスメント
 - ・システムセキュリティ診断
 - ・簡易業務診断
 - ・メインフレーム資産活用

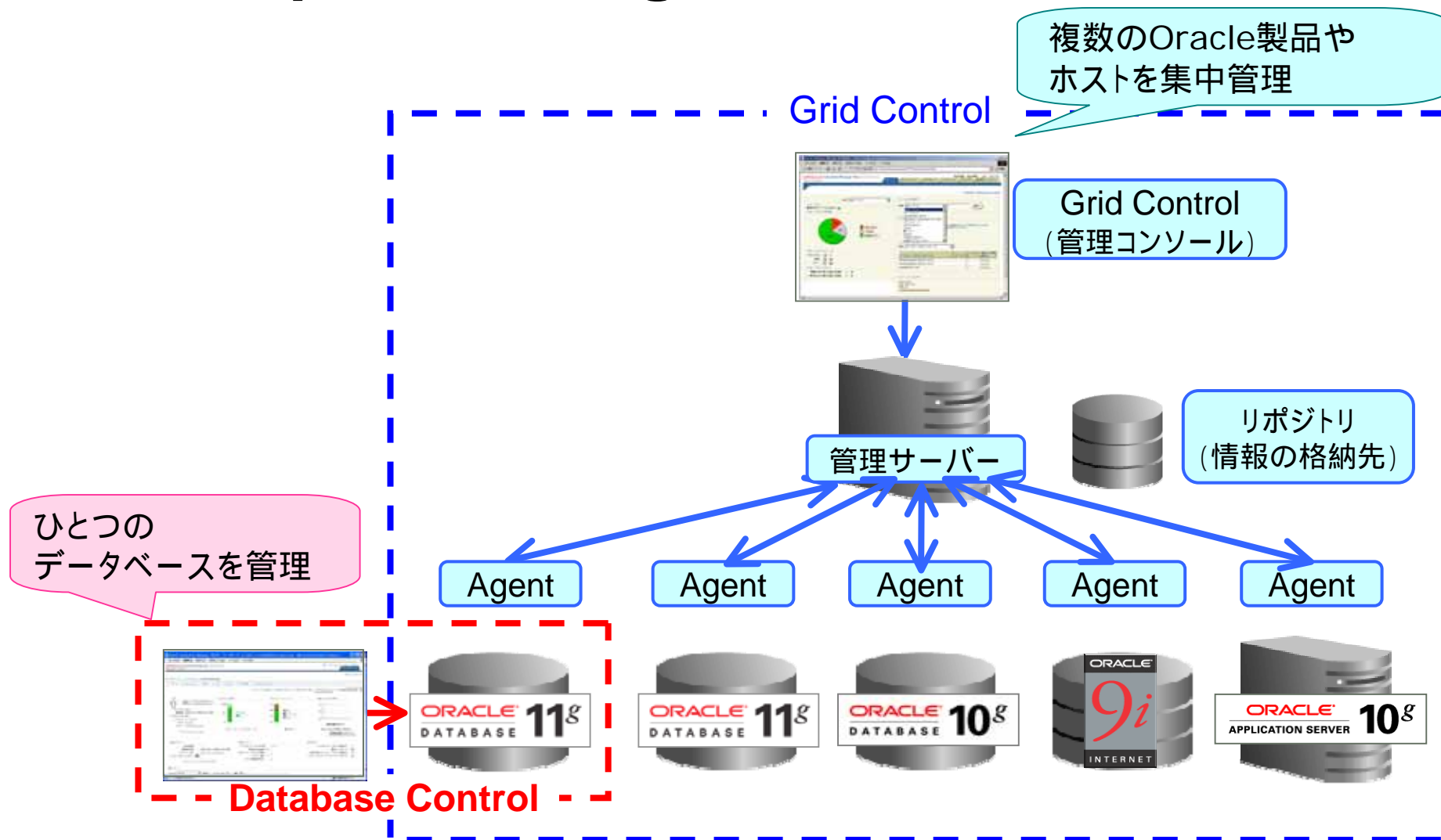
<http://www.oracle.com/lang/jp/direct/services.html>

Enterprise Manager Database Console

Enterprise Manager Database Console (以下EM): Oracle Databaseを管理するためのGUIツール



Enterprise Manager Database Console

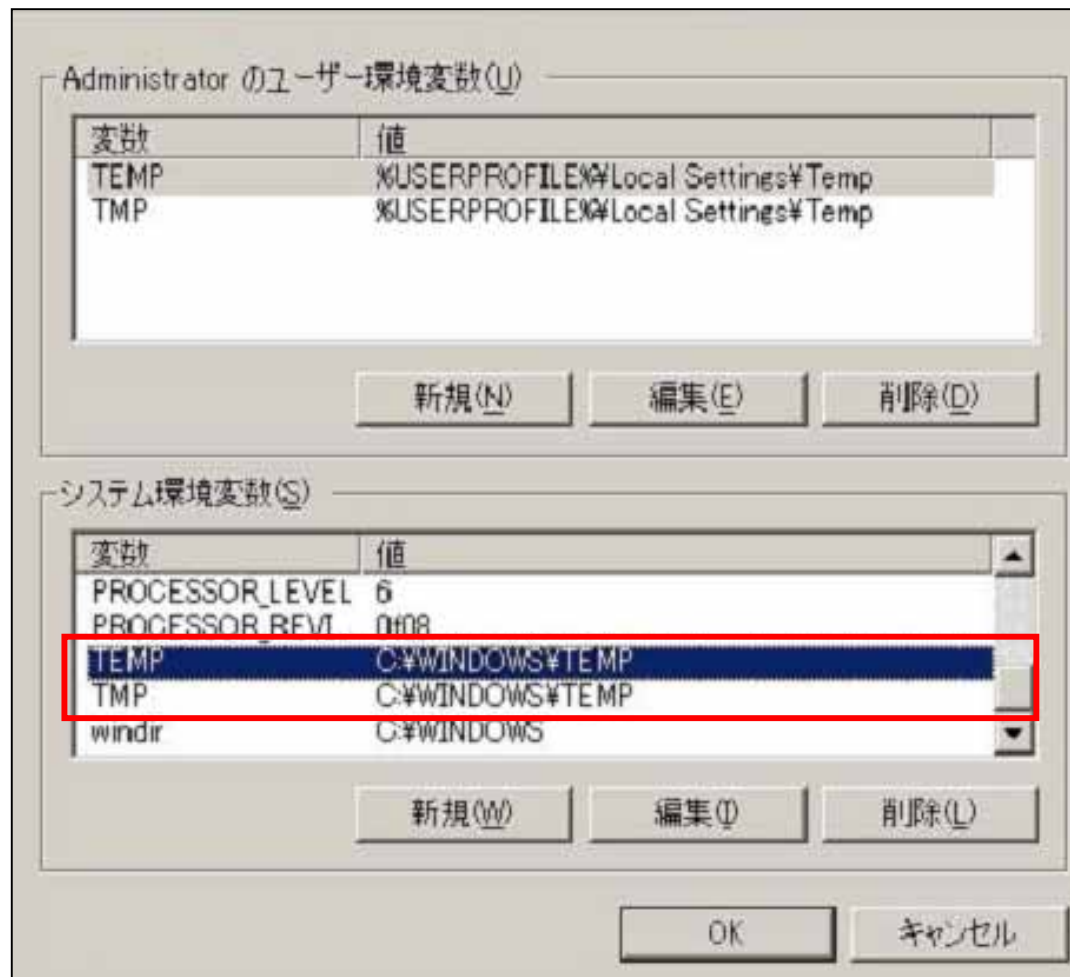




EMを使うためにOSの設定を行います

- Windows OSの設定
 - システム環境変数%TEMP%,%TMP%で指定されているディレクトリへの権限をEM用のOSユーザーに付与
 - 「バッチジョブとしてログオン権限」をEM用のOSユーザーに付与

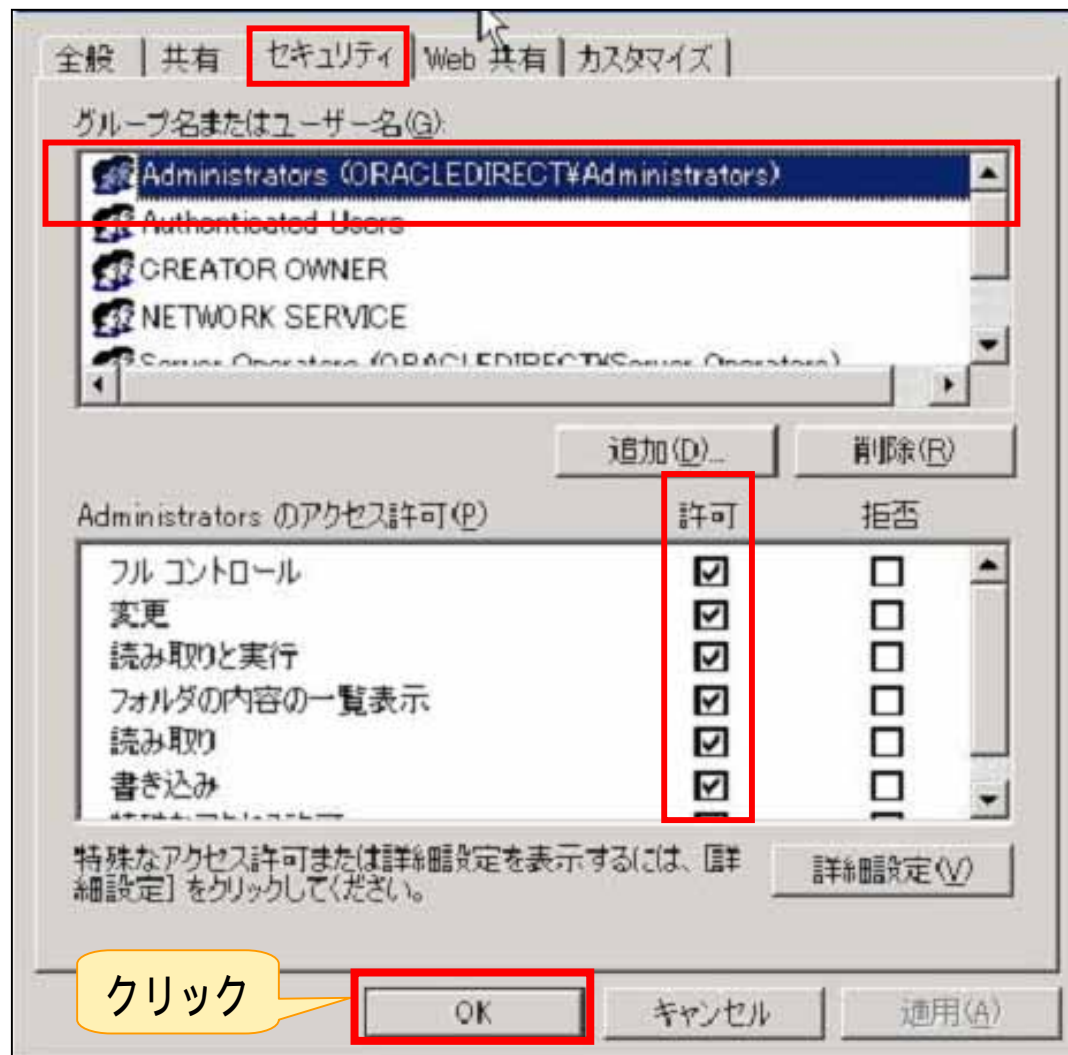
TEMPディレクトリへの権限付与をします



環境変数設定画面表示方法

「マイコンピュータ」を右クリックし
プロパティをクリック 「詳細設
定タブ」の「環境変数」のボタン
をクリック

TEMPディレクトリへの権限付与をします



権限付与手順

C:\¥WINDOWS¥TEMP フォルダを右クリック

プロパティの「セキュリティ」タブを開く

EMを使うOSユーザにアクセス許可をする

「バッチジョブとしてログオン権限」を付与します

The screenshot shows the Windows XP 'Security Settings' window. The left pane shows the tree structure: 'Security Settings' > 'Local Policies' > 'User Rights Assignment'. The right pane lists various policies, with 'Batch jobs as logon' selected. A green callout bubble points to the 'Batch jobs as logon' policy, stating: 「スタート」「コントロールパネル」「管理ツール」「ローカルセキュリティポリシー」で開けます. A yellow callout bubble points to the 'User Rights Assignment' folder, stating: 「セキュリティの設定」「ローカルポリシー」「ユーザ権利の割り当て」をたどり、「バッチジョブとしてログオン」を選択. Another yellow callout bubble points to the 'Batch jobs as logon' policy, stating: EMを使用するOSユーザーを追加します. The 'Batch jobs as logon' policy dialog is open, showing a list of users and groups. The list contains: 'GAM\Administrator', 'LOCAL SERVICE', and 'SUPPORT_388945a0'. The 'Add' button is highlighted.

「スタート」「コントロールパネル」「管理ツール」「ローカルセキュリティポリシー」で開けます

「セキュリティの設定」「ローカルポリシー」「ユーザ権利の割り当て」をたどり、「バッチジョブとしてログオン」を選択

EMを使用するOSユーザーを追加します

ローカル セキュリティの設定 | この設定の説明

バッチ ジョブとしてログオン

GAM\Administrator
LOCAL SERVICE
SUPPORT_388945a0

ユーザーまたはグループの追加(U)... 削除(R)

EMの起動状況を確認します

```
C:¥>set ORACLE_SID=<SID 名 >
```

データベースを稼働させるために、コマンドプロンプトで環境変数ORACLE_SIDを設定します

```
C:¥>emctl status dbconsole
```

EMが起動しているか確認します

```
Oracle Enterprise Manager 11g Database Control Release 11.1.0.6.0
```

```
Copyright (c) 1996, 2007 Oracle Corporation. All rights reserved.
```

```
https://jpdcl15dc.jp.oracle.com:5500/em/console/aboutApplication
```

```
Oracle Enterprise Manager 11g is running.
```

```
-----  
Logs are generated in directory
```

```
D:¥Oracle¥product¥11.1.0¥db_1/jpdcl15dc.jp.oracle.com_igaiw/sysman/log
```

Oracle Enterprise Manager 11g is not running と表示されたら、Database Controlは起動していません

EMを起動します

```
C:\>emctl start dbconsole
```

EMを起動させるためには、左にあるようにコマンド画面で入力します

```
C:\>emctl status dbconsole
```

EMが起動しているか確認します

```
Oracle Enterprise Manager 11g Database Control Release 11.1.0.6.0
```

```
Copyright (c) 1996, 2007 Oracle Corporation. All rights reserved.
```

```
https://jpdcl15dc.jp.oracle.com:5500/em/console/aboutApplication
```

```
Oracle Enterprise Manager 11g is running.
```

```
-----
```

```
Logs are generated in directory
```

```
D:\Oracle\product\11.1.0\db_1\jpdcl15dc.jp.oracle.com_igaiw/sysman/log
```

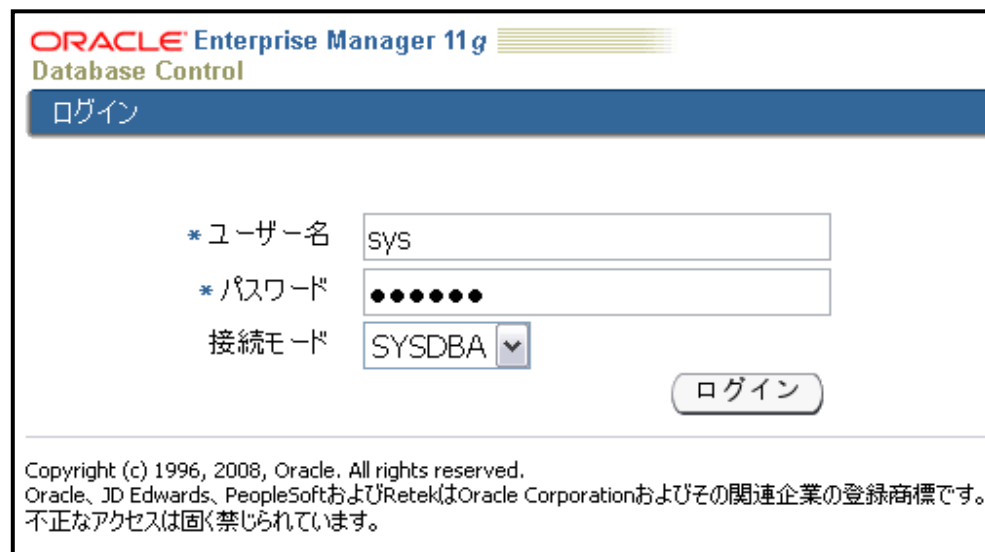
ブラウザを起動してEMにアクセスします

https://<host name>:<port>/em

e.g) https://igaiw.jp.oracle.com:1158/em

The screenshot shows the Oracle Enterprise Manager 11g Database Control login interface. At the top, the title bar reads "ORACLE Enterprise Manager 11g Database Control" with a "ヘルプ" (Help) link on the right. Below the title bar is a blue header with the word "ログイン" (Login). The main content area contains three input fields: a text box for the username labeled "* ユーザー名", a text box for the password labeled "* パスワード", and a dropdown menu for the connection mode labeled "接続モード" with "Normal" selected. A "ログイン" (Login) button is positioned to the right of these fields. At the bottom of the page, there is a copyright notice: "Copyright (c) 1996, 2008, Oracle. All rights reserved. Oracle, JD Edwards, PeopleSoftおよびRetekはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標。不正なアクセスは固く禁じられています。"

Enterprise Manager Database Consoleにログイン



ORACLE Enterprise Manager 11g
Database Control

ログイン

* ユーザー名 sys

* パスワード ●●●●●●

接続モード SYSDBA ▼

ログイン

Copyright (c) 1996, 2008, Oracle. All rights reserved.
Oracle, JD Edwards, PeopleSoftおよびRetekはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。
不正なアクセスは固く禁じられています。

項目名	入力内容
ユーザー名	sys
パスワード	DB 作成時に指定したパスワード (この資料の例では oracle)
接続タイプ	SYSDBA

Database Console ホーム画面

ORACLE Enterprise Manager 11g Database Control

データベース

SYSとしてログイン

データベース・インスタンス: igaiw.jp.oracle.com

ホーム パフォーマンス 可用性 サーバー スキーマ データ移動 ソフトウェアとサポート

ターゲットから最新データの収集 2008/06/13 20時59分05秒 JST リフレッシュ データの表示 自動(60秒)

一般 停止 ブラックアウト

ステータス 稼働中

稼働開始 2008/06/13 20時51分07秒 JST

インスタンス名 **igaiw**

バージョン **11.1.0.6.0**

ホスト jpdel15dc.jp.oracle.com

リスナー LISTENER_jpdel15dc.jp.orac...

[すべてのプロパティの表示](#)

ホストCPU

100% 50 0

その他 igaiw

ロード 0.00 ベーシング 1.41

アクティブ・セッション

4.0 2.0 0.0

待機 ユーザー I/O CPU

最大CPU 4

SQLレスポンス時間

1.0 0.5 0.0

参照収集は使用できません。

SQLレスポンス時間(%) 使用不可

[参照収集のリセット](#)

診断サマリー

ADDM結果	ADDM実行が使用できません
アラート・ログ	ORA-エラーはありません
アクティブなインシデント	0

[データベース・インスタンスの状態](#)

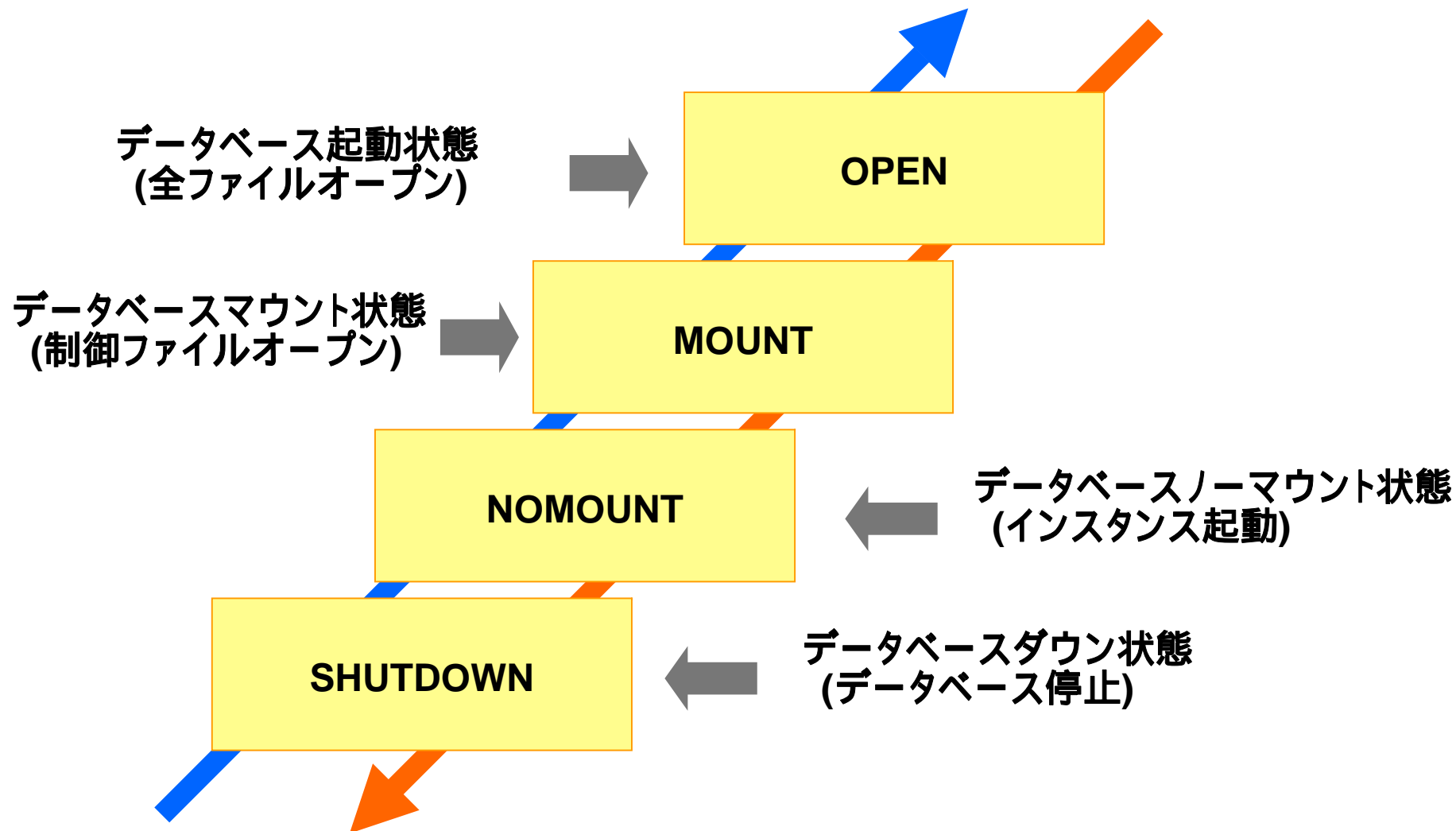
領域サマリー

データベース・サイズ(GB)	使用不可
問題のある表領域	0
セグメント・アドバイザ推奨	詳細
ポリシー違反	0
ダンプ領域使用率(%)	使用不可

高可用性

インスタンス・リカバリ時間(秒)	18
最終バックアップ	N/A
使用可能なフラッシュ・リカバリ領域(%)	95.46
フラッシュバック・データベース・ロギング	無効

データベースの状態は4種類あります



データベースを停止します

起動/停止:ホストとターゲット・データベースの資格証明の指定

データベースのステータスを変更するには、次の資格証明を指定してください。

ホスト資格証明

OSユーザー名とパスワードを指定してターゲット・データベース・マシンにログインしてください。

* ユーザー名
* パスワード

データベース資格証明

ターゲット・データベースの資格証明を指定してください。

OSの認証を使用するには、ユーザー名とパスワードの各フィールドを空白にしておいてください。

* ユーザー名
* パスワード
データベース
* 接続モード

☐ 優先資格証明として保存

データベースのステータスを変更するには、SYSDBAまたはSYSOPERとしてデータバ

ホスト資格証明及び
データベース資格証明
を入力



起動/停止:確認

現行のステータス 閉

操作 停止即時

この操作を実行しますか。

クリック

SQL表示

拡張オプション

いいえ

はい

ORACLE

Database Console ホーム画面

データベース・インスタンス: igaiw.jp.oracle.com

Enterprise Managerはデータベース・インスタンスに接続できません。コンポーネントの状態は次のとおりです。

ページ・リフレッシュ 2009/03/08 21時37分22秒 JST

リフレッシュ

データベース・インスタンス



ステータス 停止中
ホスト oradirect-jp.jp.oracle.com
ポート 1521
SID igaiw
Oracleホーム D:¥ oracle¥ product¥ 11.1.0¥ db_1

詳細 ユーザーが停止を開始しています。

起動

リカバリの実行

クリック

リスナー



ステータス 稼働中
ホスト oradirect-jp.jp.oracle.com
ポート 1521
名前 LISTENER
Oracleホーム D:¥ oracle¥ product¥ 11.1.0¥ db_1
場所 D:¥ oracle¥ product¥ 11.1.0¥ db_1¥ network¥ admin
詳細

インスタンスへのエージェント接続



ステータス 失敗
詳細 ORA-12505: TNS: リスナーは接続記述子で指定されたSIDを現在認識していません (DBD ERROR: OCIServerAttach)

ORACLE

データベースを起動します

起動/停止:ホストとターゲット・データベースの資格証明の指定

データベースのステータスを変更するには、次の資格証明を指定してください。

ホスト 資格証明

OS ユーザー名とパスワードを指定してターゲット・データベース・マシンにログインしてください。

* ユーザー名
* パスワード

データベース 資格証明

ターゲット・データベースの資格証明を指定してください。

OSの認証を使用するには、ユーザー名とパスワードの各フィールドを空白にしてください。

* ユーザー名
* パスワード
データベース
* 接続モード
☐ 優先資格証明として保存

① データベースのステータスを変更するには、SYSDBAまたはSYSOPERとしてデ

ホスト資格証明及び
データベース資格証明
を入力

起動/停止:確認

現在のステータス 停止

操作 openモードでデータベースを起動

初期化パラメータ デフォルト

この操作を実行しますか。

クリック

SQL表示

拡張オプション

いいえ

はい

ORACLE

100





まとめ

データベースの推奨構築方法

OUIよりOracle ソフトウェアをインストールする

Net CAよりリスナーを構成する

DBCAよりデータベースを構成する

EMでOracle Databaseを管理する

**GUI上でOracle Databaseを
構築できる!**



年末ダイセミ受講感謝キャンペーン

Oracle Direct Seminarを御愛護頂き、誠にありがとうございます。感謝の気持ちを込めまして、**合計100名様**にWendy2010年版カレンダーをプレゼントいたします。11月・12月に開催のダイセミを2つ以上受講頂いた方が対象です。是非皆様奮ってご応募下さい!!

プレゼントの送付先は、セミナ登録時にご登録されている貴社住所宛てに送付させていただきます。
お客様の登録情報に、a.貴社名、b.部署名、c.役職名、d.住所が正しく登録されていることをご確認ください。
a,b,c,dの情報が**正しく登録されていない場合はご応募が無効**となりますのでご注意ください。
お客様情報の変更はこちらから実施頂けます。

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/membership/index.html>

応募方法



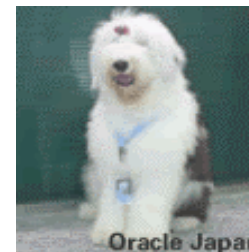
ORD_SEMINAR_JP@ORACLE.COM

【タイトル】年末カレンダー応募

【必要情報】

- 1、ご登録の氏名
- 2、ご登録の貴社名、所属部署名
- 3、受講された2009年11月・12月開催のセミナタイトル
- 4、現在ご検討中のシステムについてなど、Oracle Directに相談されたいことなどございましたら記載ください。

必要情報を明記のうえ、メールでご応募ください。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。



ORACLE

OTN × ダイセミ でスキルアップ!!



- ・技術的な内容について疑問点を解消したい！
- ・一般的なその解決方法などを知りたい！
- ・ 세미나資料など技術コンテンツがほしい！

Oracle Technology Network(OTN)を御活用下さい。

<http://otn.oracle.co.jp/forum/index.jspa?categoryID=2>

セミナーに関連する技術的なご質問は、OTN掲示版の
「データベース一般」へ

OTN掲示版は、基本的にOracleユーザー有志からの回答となるため100%回答があるとは限りません。
ただ、過去の履歴を見ると、質問の大多数に関してなんらかの回答が書き込まれております。

<http://www.oracle.com/technology/global/jp/ondemand/otn-seminar/index.html>

過去の 세미나資料、動画コンテンツはOTNの
「OTNコンテンツ オン デマンド」へ

세미나事務局にダイセミ資料を請求頂いても、お受けできない可能性がございますので予めご了承ください。
ダイセミ資料はOTNコンテンツ オン デマンドか、 세미나実施時間内にダウンロード頂くようお願い致します。

ORACLE

ITプロジェクト全般に渡る無償支援サービス

Oracle Direct Conciergeサービスメニュー

システム運用状況の診断

- [パフォーマンス・クリニック・サービス](#)
- [システム・セキュリティ診断サービス](#)
- [データ管理最適化サービス](#)

システム構築時の道案内

- [Access / SQL Serverからの移行](#)
- [MySQL / PostgreSQLからの移行](#)
- [Oracle Database バージョンアップ支援](#)
- [Oracle Developer Webアップグレード](#)
- [システム連携アセスメントサービス](#)

業務改善計画の作成支援

- [業務診断サービス](#)
- [BIアセスメントサービス](#)

システム企画の作成支援

- [業務診断サービス](#)
- [BIアセスメントサービス](#)

RFP / 提案書の作成支援

- [BIアセスメントサービス](#)
- [メインフレーム資産活用相談サービス](#)
- [仮想化アセスメントサービス](#)
- [Oracle Database 構成相談サービス](#)
- [Oracle Database 高可用性クリニック](#)



ORACLE®

あなたにいちばん近いオラクル



Oracle Direct

まずはお問合せください

システムの検討・構築から運用まで、ITプロジェクト全般の相談窓口としてご支援いたします。

システム構成やライセンス/購入方法などお気軽にお問い合わせ下さい。

Web問い合わせフォーム

専用お問い合わせフォームにてご相談内容を承ります。

http://www.oracle.co.jp/inq_pl/INQUIRY/quest?rid=28

フォームの入力には、Oracle Direct Seminar申込時と同じ
ログインが必要となります。

こちらから詳細確認のお電話を差し上げる場合がありますので、ご登録さ
れている連絡先が最新のものになっているか、ご確認下さい。

フリーダイヤル

0120 - 155 - 096

月曜～金曜 9:00～12:00、13:00～18:00

(祝日および年末年始除く)

ORACLE®



日本オラクル株式会社 無断転載を禁ず

この文書はあくまでも参考資料であり、掲載されている情報は予告なしに変更されることがあります。

日本オラクル社は本書の内容に関していかなる保証もいたしません。また、本書の内容に関連したいかなる損害についても責任を負いかねます。

Oracle、PeopleSoft、JD Edwards、及びSiebellは、米国オラクル・コーポレーション及びその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称はそれぞれの会社の商標の可能性がありま